

和仏法律学校講義録

金井, 延 / 若槻, 禮次郎 / 竹井, 耕一郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

1-23

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

48

(発行年 / Year)

1902-10-05

(明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可 毎月二回)
明治三十五年十月五日發行

三十五年度 第一學年



和佛法律學校講義錄

和佛法律學校發行

第貳拾叁號



第一學年第二十三號目次

憲

法(自二五九
至二七四)

法學士 竹井耕一 郎

民法總則 自第四章(完)(自二九九
至三三三)

表紙及目次 六頁

法學士 若槻禮次 郎

經濟學 總論(自八六
至九六)

法學博士 金井 延

雜報 ○高等科講義○辯護士試験筆記試験○第二年級編入試験

090
1902
1-1-23

場

天皇ハ統治ノ主體ニシテ機關ニ非ス故ニ此說ノ根本既ニ我國法ト一致セス
然レトモ假ニ此點ハ前說ニ從フトスルモ尙ホ明確ナラサル點アリ何トナレハ
前說ニ依レハ統治權ト大權トハ全ク其内容ヲ同シウシ唯觀察ノ方面ニ依リ名
稱ヲ異ニスルニ過キサルカ故ニ統治權行使ハ一方ヨリ言ヘハ大權ノ行使ナリ
ト謂ハサルヘカラス然レトモ國法上大權ト稱スルハ此ノ如キ廣漠ナルモノニ
非ス例ヘハ天皇以外ノ機關カ統治權ヲ行使スル場合ハ決シテ之ヲ大權ト稱セ
ス天皇御自身ニ攬ラセラルル政務ノミヲ大權ト謂フハ蓋シ疑ヲ存セサルナリ
右述ヘタル所ニ依リ天皇親裁ノ政務ヲ大權ト稱スト解シ以下更ニ進ミテ此種
ノ政務ニ關シ憲法ニ規定セル發動ノ形式ヲ略述セント欲ス
(一) 法律制定ノ權 憲法第五條ニ曰ク「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ
行フ」或ハ立法權ハ議會ノ協賛ヲ要スルヲ以テ天皇ノ大權即チ親裁ノ政務ニ
非スト曰フ者アリ然レトモ議會ノ協賛カ立法ノ大權タルヲ妨ケサルコト恰モ
國務大臣ノ輔弼カ天皇ノ大權行使ヲ妨ケサルト同一ナリ議會ハ單ニ天皇立法
ノ大權ニ協賛スルニ過キス立法權カ議會ニ依リテ行ハルルニ非サルナリ

明治三十二年十二月九日內務省許可 明治卅五年十月五日發行（毎月二回五日、二十日發行）
明治三十四年一月四日第三種郵便物認可
和佛法律學校講義錄三十五年度第一學年第二十三號附錄

東京帝國大學教授 英國國際法協會副議長 法學博士高橋作衛先生著

戰時國際公法

明治卅五年九月廿九日刊行
累製本定價金壹圓參拾五錢
本製本定價金壹圓六拾錢
郵税金拾四錢

高橋博士カ國際公法ヲ以テ名ヲ東西學海ニ聘セラレタルハ茲ニ喋々ヲ要セス。而シテ戰時ノ部ハ其最モ卓絶スル所ニシテ。或ハ爲メニ身ヲ戰地ニ投シ。或ハ爲メニ發ヲ歐米ニ負ハレタリ。本書ハ博士カ歸朝後海軍大學校ノ爲メニ講先例深タ舉タ法理廣ク探リ學說ヲ引キ提案并々、文理整述セラレタルモノヲ骨子トシ多ク從テ讀ミ從テ解スルヲ得特ニ卷末ニハ主要ナル宣言、列國大條約、學會決議案、内外法規ノ戰時海上ニ關スルモヲ附録トシ。以テ參照ノ便ニ供セリ。故ニ凡ソ法學研究者ハ其受贈者タルト實務家タルト問ハス。又海軍將校ハ勿論、外交官、商船事務員其外戰爭ニヨリ影響ヲ蒙ルヘキ海外通商等ニ從事スル者ノ座右ニ銘スヘキ良書ナルヲ以テ本院ハ茲ニ博士ニ乞フテ之ヲ公刊ス

發行所 東京市本郷六丁目五番地 哲學書院大賣捌所 九 善、有斐閣、嵩山房
發賣元 清水書店、明法堂、仙鶴堂

編輯兼 東京市京橋區南船場町廿七番地 發行所 松田久次郎
印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

(二) 法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命スルノ權 此權ハ憲法第六條ニ規定スル所ナリ詳シク言ヘハ天皇ハ親ラ法律ヲ裁可シ且機關ヲシテ公布シ執行セシムルノ權ナリ故ニ法律ノ公布執行ハ機關ノ行フ所ナレトモ之ヲ命令シテ行ハシムルハ天皇ノ大權ナラサルヘカラス右裁可公布執行ノ意義ニ付テハ後ニ詳論スヘシト雖モ一言以テ之ヲ蔽ヘハ裁可トハ法律案ヲ法律トスル作用ニシテ第一ニ舉ケタル法律制定權ヲ行フ形式ナリトス公布ハ法律ヲ一般ニ向ヒテ宣示スルヲ謂ヒ執行トハ法律ヲ現實ニ行フ勅令ナリ

(三) 帝國議會ノ召集開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ行フ權 此權ハ憲法第七條ニ規定ス其天皇親裁ノ政務ニ屬スルコト固ヨリ論ナシ

(四) 緊急勅令ヲ發スルノ權 憲法第八條ニ曰ク「天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避タル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス」ト即チ通常法律ヲ要スル事件ヲ須要ノ場合ニ勅令ヲ以テ規定スルノ權ニシテ固ヨリ天皇ノ大權ニ屬ス同條第二項ニ此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ

其效力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアリ茲ニ所謂政府トハ強ヒテ天皇ヲ謂フト解スヘシトスル學者アリ其理由トスル所ハ天皇ノ勅令ニ對シ政府其レ自身カ失效ヲ宣言スヘキ道理ナシト云フニ在リ然レトモ此見解ハ誤レリ政府カ勅令ヲ失效セシムルニ非ス天皇カ政府ヲシテ失效ヲ公布セシムルナリ故ニ理論上何等ノ不都合ナキモノトス

(五) 執行命令及ヒ獨立命令ヲ發シ又ハ機關ヲシテ發セシムルノ權 憲法第九條ニ曰ク「天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムル但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス」ト此規定ニ依レハ天皇自ラ執行命令及ヒ獨立命令ヲ發シ得ルノミナラス機關ヲシテ發セシムルヲ得或者ハ機關ニ委任スルヲ得ルカ故ニ天皇ノ大權ニ非スト論ス然レトモ本條ニ規定スルハ機關ヲシテ命令ヲ發セシムルノ權ニシテ機關カ委任ヲ受ケテ命令ヲ發スル場合ノ規定ニ非ス機關ヲシテ命令ヲ發セシムルハ天皇ノ大權ニ依ラサレハ能ハサルナリ畢竟或者ノ批難ハ根本ノ權利ト之ヨリ生スル機關ノ權限トヲ混淆シタルノ論ナリ

法律ヲ執行スル爲メニ發スルヲ執行命令ト謂ヒ次ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ發スル命令ニシテ緊急勅令即チ法律ニ代ルモノニ非サルヲ獨立命令ト稱ス執行命令及ヒ獨立命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得サルハ本條末文ニ之ヲ定ム

(六) 行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ文武官ヲ任免スルノ權憲法第十條ニ曰ク「天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ル」ト故ニ此權ハ或ハ憲法或ハ法律ノ形式ヲ以テ行フコトアリト雖モ原則トシテハ勅令ヲ以テ行フヘキモノトス蓋シ本條ハ説明ヲ要スル點尠カラズ第一ニ字句ニ付テ略說スレハ先ツ行政各部トハ何ソ行政事務ヲ掌管スル各機關ヲ稱ス次ニ官制トハ何ソ機關ノ組織及ヒ權限ヲ定ムル規定ヲ謂フ又次ニ文武官ノ俸給トハ何ソ蓋シ武官トハ天皇統帥權ノ下ニ軍事ノ事務ヲ掌ル機關ヲ謂ヒ其他ノ百官ハ皆文官ト稱ス此等機關ニ當ル者ニハ官ニ應シテ俸給ヲ與ヘ以テ十分ニ力ヲ國務ニ致スコトヲ得セシム尙ホ次ニ文武官ヲ任免ストハ何ソ任免權ニ關シテ

ハ議論アリ例ヘハ現行法ニ於テ判任官ノ任免ハ本局長官ニ委任シテ行ハシム故ニ畢竟任免權ハ天皇ノ大權ニ非スト論スル學者アリ然レトモ元來任免權ハ機關ヲ構成スル根本ノ權ニシテ理論上之ヲ大權ナリトスルハ蓋シ至當ノコトナリトス若シ論者ノ說ニ從ヒ大權ニ由リテ機關ヲ構成セストセハ何ニ由リテ機關ヲ構成セントスルカ或ハ機關ニ委任シテ行フト云ハシカ然レトモ委任ハ機關構成ノ後ニ非サレハ行フコト能ハサルニ非スヤ故ニ畢竟憲法論トシテハ任免權ハ大權即チ親裁ノ政務ナリト論シ去ラサルヘカラス憲法第十條但書ニ依レハ官制制定等ノ權ハ必スシモ勅令ノミヲ以テ行ハス憲法又ハ法律ノ形式ヲ以テ行フ場合アリ是ニ於テカ問題ヲ生ス先ツ憲法ハ法律命令等ノ效力ヲ左右スル根本法ナルカ故ニ此等ノ間ニ牴觸ノ疑ヲ生セスト雖モ法律ト此種ノ勅令トノ間ニ多少ノ疑問ヲ生スルヲ免レス(第一ニ法律ヲ以テ官制等ヲ規定シタル場合ニ勅令ヲ以テ之ヲ動スコトヲ得ルヤ否ヤ此點ハ深ク論スルマテモナシト考フ何トナレハ本條ニ於テ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ之ニ依ルトアルカ故ニ勅令ヲ以テ漫ニ之ヲ動スコト能ハサルコトト爲ルヘケレハナリ(第二ニ勅

令ヲ以テ此等ノ規定ヲ爲シタル場合ニ法律ヲ以テ之ヲ動シ得ルカハ疑問ナリ
予ハ以テ爲ク官制等ノ規定ハ勅令ニ依ルヲ原則トシ法律ハ唯特例ニ屬スヘキカ
故ニ進ミテ勅令ノ規定ヲ左右スルコト能ハサルヘントシ然ラストセシカ法
律ハ漸次勅令規定ノ範圍ニ立入り之ト同時ニ勅令ハ其法律ヲ動スコト能ハナ
ルカ故ニ畢竟勅令ノ範圍ハ漸ク侵蝕セラレ結局本條ノ精神タル勅令規定ノ自
由ハ之ヲ行フコト能ハサルニ至ルノ恐ナキニ非ス故ニ予ハ法律ヲ以テ勅令ヲ
動スコト能ハサルモノト解セント欲ス(第三)法律カ勅令ヲ動スニ非スシテ唯法
律ヲ以テ勅令ニ定ムル機關ニ或事務ヲ委託スルハ差支ナシ此場合ニ於テ法律
ニ指定セル機關ノ變更廢止ヲモ行フコト能ハサルヤ若シ行フコト能ハストセ
ハ法律ハ間接ニ勅令規定ノ自由ヲ拘束スルヲ得ルニ非スヤトノ疑問ヲ生ス予
ハ以テ爲ク右ノ場合ニ法律ハ自ら機關ヲ組織シタルニ非ス唯事務ノ施行ヲ目的
トシテ委託シタルニ外ナラサルカ故ニ勅令ヲ以テ其機關ノ變更廢止ヲ行フモ
他ニ法律委託ノ事務ヲ施行スル方法ヲ設クレハ毫モ差支ナキナリ且若シ法律
カ單ニ其機關存在ノ間ヲ期シテ事務ヲ委託シタルモノナランニハ勅令ヲ以テ

機關ヲ改廢スルト共ニ委託事務モ消滅スヘキ道理ナリトス要スルニ第三ニ舉
グタル疑問ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ機關ノ改廢ヲ行フハ何等ノ差支ヲ見ナ
ルナリ
(七) 陸海軍ヲ統帥スルノ權 或ハ曰ク陸海軍ノ統帥ハ天皇親ヲ爲シ給フニ非
ス各種ノ將校武官ニ委任シテ爲サシムルカ故ニ之ヲ大權ト稱スヘカラスト然
レトモ本條ニ所謂統帥トハ兵馬ノ全權ヲ掌握セラルルノ意ニシテ固ヨリ機關
ニ委任シ得ヘキ性質ノモノニ非ス我國往古ニ在リテハ兵馬ノ權ハ天皇親ヲ握
リ給ヒ之ヲ下ニ移スコトナカリシカ中世武門ノ跋扈ニ因リ一時兵權下ニ移ル
ノ形ヲ爲セリ然ルニ王政維新ノ後制度再ヒ古ニ復シ陸海軍ノ統帥ハ全ク天皇
親裁ノ政務ト爲リシコト史ニ據リテモ明カナリ故ニ本條ハ固ヨリ疑義ヲ挿ム
ヘキ處ナシ

(八) 陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ムル權 此權モ陸海軍統帥ノ權ト相伴フ
モノニシテ亦天皇ノ大權ニ屬ス編制トハ陸軍及ヒ海軍ノ組織ヲ謂フ憲法義解
ニハ兵器、服制、禮式等ニ至ルマテ編制ノ中ニ包含セシムト雖モ此ノ如キ細密

ノ事柄マナ編制ノ大權ニ屬セシムルハ其當ヲ得スト知ルヘシ次ニ常備兵額ヲ定ムルハ常時ニ於ケル一國ノ戰鬪力ヲ定ムル所以ニシテ大權ノ作用ニ屬スルコト論ナシ現行制度ニ於ケル常備兵ハ現役及ヒ豫備ノ兵員ヲ總稱スルモノトス

外國殊ニ英國ノ制度ニ於テハ君主カ常備兵ヲ自己ノ手足トシ以テ其暴横ヲ遏シウセンコトヲ恐レ議會ノ豫算議定權ヲ以テ間接ニ兵額ノ制限ヲ行フ手段ト爲スト雖モ我國ニ於テハ固ヨリ此主義ヲ認メス常備兵額ハ天皇ノ大權ニ依リ確定シ議會ハ之ニ干渉スルコト能ハサルモノトス

(九) 宣戰講和及ヒ條約締結ノ權 此權ノ大權タルコト固ヨリ論ヲ俟タス先ツ宣戰トハ戰端ノ開始ヲ公ニ宣示スルナリ但宣戰ノ前ニ事實上ノ戰端ハ既ニ開始スルコトナキニ非ス次ニ講和トハ戰争後ニ本來ノ平和狀態ニ回復スル爲メニ行フ作用ナリ又次ニ條約トハ法理上契約ノ一種ニシテ國ト國トノ意思ノ合致ヲ稱ス條約ノ種類一樣ナラス和親條約ノ外通商條約郵便條約等アリ今一舉クヘカラス尙ホ條約ノ締結ハ批准ニ在リテ存スルコト恰モ法律力裁可ニ由

リテ成ルカ如シト知ルヘシ

(三) 戒嚴宣告ノ權 此權ノ大權タルコト亦疑フヘカラス戒嚴トハ戰時又ハ事變ノ場合ニ於テ常法ヲ停ムルノ勸ナリ是レ蓋シ非常ノ場合ニ於テ國家ノ生存ヲ維持スルノ必要ニ出テ亦已ムヲ得サルコトニ屬ス戒嚴ニ二種アルコト及ヒ其效力ニ關シテハ臣民ノ權利及ヒ義務ヲ論スル場合ニ説明シタルカ故ニ之ヲ略ス要スルニ其效力ノ重ナルモノハ憲法第二章ニ規定スル臣民ノ權利ニ關スル保障ヲ解クニ在リトス

憲法第十四條ニ此權ヲ規定ス同條第二項ヲ觀ルニ戒嚴ノ要件及ヒ效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス蓋シ戒嚴宣告ハ主トシテ臣民ノ自由權ニ關係スルカ故ニ豫メ法律ヲ以テ戒嚴ヲ宣告スルニ必要ナル條件及ヒ其效果ヲ定メ天皇ハ之ニ依リテ行ハセラルルコトシタルニ外ナラスト知ルヘシ

(二) 榮典授與ノ權 榮典トハ一般臣民ノ中ニ於テ特別ノ理由ヨリシテ特種ノ者ニ榮譽ノ表章ヲ付與スルノ權ナリ天皇ハ固ヨリ榮譽ノ本源タリ故ニ各種ノ榮典ヲ付與スルハ亦大權ノ作用ト看ルヘキナリ

榮典ノ種類ハ一様ナラズ其重ナル者ヲ舉クレハ爵位勳章紀章年金等ニシテ其
他褒狀褒詞金銀木盃及ヒ金圓ノ賜與等モ亦榮典ノ一種ナリトス今其重ナル者
ヲ説明スレハ爵ニ五等アリ公侯伯子男爵是ナリ位ニ十六級アリ從八位ヨリ正
一位ニ至ル勳章ハ大別シテ二トス大勳章及ヒ普通勳章是ナリ此内ニモ各亦數
種ニ分ル紀章ニ三種アリ年金ニ二種アリ此等ハ今一之ヲ説明セス
(三) 大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命スルノ權ハ此權ハ刑罰ヲ科セラル者ニ對
シ其刑罰ノ全部又ハ一部ヲ免除シ及ヒ公權ヲ奪止セラル者ニ對シ之ヲ復
スルノ効ナリ此作用ハ刑罰ヲ科シ公權ヲ奪止シタル機關ノ行動其レ自身ヲ取
消スニ非ス唯其行動ノ效果ヨリ罪人ヲ免レシムルニ過キス然レトモ是レ固
リ常法ノ外ニ超越スル効ニシテ天皇ノ大權ニ非サレハ行フコト能ハサルコト
タリ蓋シ此作用ハ一方ニ於テハ天皇ノ仁澤ヲ洽クシ一方ニ於テハ刑律ノ嚴格
ニ對シテ幾分ノ餘裕ヲ設クル所以ニシテ古ヨリ行ハレ來リタル制度ナリトス
此權ニ關シテ或學者ハ論シテ曰ク大赦特赦ハ單ニ刑罰ニ對スルノミナラス一
般ニ天皇ノ大權ヲ以テ法ノ效果ヲ免除スル作用ナリト然レトモ此論ハ餘リニ

空漠ナリ蓋シ之ヲ我國古來ノ制度ニ稽ヘ更ニ諸國ノ法制ヲ參照スルトキハ大
赦及ヒ特赦ト稱スルハ刑罰ノ免除ニ外ナラサルヲ知ルヘキナリ先ツ大赦トハ
何ソ一般ニ或犯罪ニ對スル刑罰ノ效力ヲ取消ス場合ヲ謂ヒ特赦トハ確定裁判
ヲ經タル或犯人ニ對シ特ニ罰ノ執行ヲ赦ス場合ヲ謂フ減刑及ヒ復權ニ關シテ
ハ説明ヲ要セス

(三) 憲法條項改正發議ノ權 此大權ニ關シテハ既ニ詳細ノ説明ヲ爲セリ
(四) 皇室典範改正ノ權 此權モ亦天皇ノ大權ニ屬ス(憲法第七五條皇室典範第
六二條)

以上憲法ニ規定スル天皇大權ノ大體ヲ説明セリ

第二節 非親裁ノ事務

前節ニ於テ天皇親裁ノ事務ノ大體ヲ述ヘタリ本節ニ於テハ之ニ對シテ非親裁
ノ事務ヲ説明セント欲ス然レトモ非親裁ノ事務ハ機關ニ委任シテ行ハシムル
諸般ノ雜務ニシテ主トシテ憲法ニ於テ説明スヘキニ非ス其詳細ハ之ヲ行政法、

刑法等ノ説明ニ譲ラサルヲ得ス今唯其一斑ヲ舉クレハ
(一) 司法權ハ裁判所ニ委任シテ行ハシム而シテ之ニ關スル大體ノ説明ハ前ニ
司法裁判所ノ章ニ於テ爲シタルヲ以テ之ヲ略ス尙ホ其詳細ノ説明ニ至リテハ
刑法訴訟法等ニ譲ラサルヘカラス

(二) 行政ノ一部分ハ機關ニ委任シテ之ヲ行ハシム而シテ此等ハ主トシテ行政
法ノ關スル所タリ一般ノ學說トシテ先ツ天皇ヲ統治ノ主體トスル者ハ曰ク行
政トハ總テ機關ヲ通スル國權ノ發動ヲ謂フト次ニ天皇ヲ國家ノ機關ナリトス
ル者ハ曰ク行政トハ間接機關ノ行動ヲ謂フト此等ノ說ニ依レハ天皇ハ絕對ニ
行政ヲ爲シ給ハス大臣以下ノ機關ノミカ行政ヲ爲スモノナリトノ觀念ナリ
然レトモ此觀念ハ果シテ適當ナルヘキヤ簡單ニ言ヘハ行政トハ臣民ニ對シテ
政務ヲ施行スルコトナリ天皇ハ果シテ親ラ此ノ如キ行動ヲ爲シ給フコトナキ
ヤ前ニ天皇大權ノ一種トシテ舉ゲタル公共ノ安全ヲ計ルカ爲メニ發スル緊急
勅令及ヒ公ノ秩序臣民ノ幸福ノ爲メニ發スル獨立命令ハ何故ニ行政ト謂フコ
ト能ハサルヤ殊ニ獨立命令ノ如キ機關カ之ヲ發スレハ何人モ行政ナリトシテ

怪シマス然ルニ天皇カ之ヲ發スレハ行政ニ非スト稱ス予ハ其間ニ如何ナル區
別アリヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ畢竟一般ノ學說ハ初ヨリ天皇直接ノ行爲ハ
行政ニ非スト獨斷シテ論シ去ルニ過キスシテ十分ナル根據ノ在リテ存スルニ
非サルヘシ唯其理由トモ謂フヘキハ法學研究ノ上ニ於ケル學者ノ便宜ニ外ナ
ラス今日一般ノ學者ハ國法學ノ中ニ於テ憲法學及ヒ行政法學ノ二者ヲ區別シ
憲法學ニ於テハ主トシテ天皇直接ノ作用ヲ論シ行政法學ニ於テハ間接ノ作用
即チ機關ニ委任スル政務ヲ説明ス是レ蓋シ研究ノ便ニ出ラタルモノニシテ此
便宜論ヲ以テ進ミテ行政ノ理論ニ及ホシ天皇ハ行政ヲ爲スコトナシトスルハ
本末ヲ誤リタルノ論ナリ故ニ現今ノ學說ヨリスレハ行政本末ノ意義ト所謂行
政法ニ於テ説明スル範圍トハ別別ニ之ヲ觀察セサルヘカラス若シ之ヲ混合ス
ルトキハ行政ノ意義ハ實ニ不明ニ歸スヘキナリ
予ハ根本的ニ行政ノ意義ヲ解スルカ故ニ必スシモ全部機關ニ依ラサレハ行ハ
レスト解セス委任ノ事務ハ行政ノ大部分ヲ占ムト雖モ而モ全部ヲ占ムルトシ
テ論セサルナリ

(三) 天皇統帥權ノ下ニ在ル軍事ノ機關ニシテ普通ノ行政事務以外ノ軍事事務ヲ掌ル者アリ蓋シ此種機關ノ中ニ於テモ直接ニ天皇統帥ノ大權ヲ參照スルコト恰モ普通ノ場合ニ國務大臣カ天皇ノ大權ニ參照スルト同一ナル者アリ例ヘハ元帥府參謀本部ノ如キ天皇ノ帷幄ニ參シテ大權ヲ輔弼スル機關ニ外ナラス然ルニ此種ノ機關ノ外ニ一定ノ軍事事務ノ委任ヲ受ケテ之ヲ行フ機關アリ此等ノ場合ハ機關ヲ通シテ行ハルル非親裁ノ事務ニ屬ス例ヘハ軍人ノ教育兵器ノ設備等ノ事務是ナリトス

以上述ヘタル所ハ非親裁事務ノ大要ナリ既ニ述ヘタル如ク此等ハ主トシテ憲法ニ於テ説明スヘキニ非ス故ニ唯數言ヲ列テタルニ過キサルノミ

第三節 附説

第一節及ヒ第二節ニ於テ統治作用ノ形式ニ於ケル二大區別ヲ論セリ猶ホ觀念ノ方面ヲ易ヘテ別ニ一種ノ形式的區別ヲ爲スコトヲ得然レトモ此區別ハ左程重要ナラサルヲ以テ唯參考ノ爲メニ附説トシテ一言スヘシ蓋シ統治權行使ノ

方法ニ於テ其直接ノ效果カ人民ニ及ボサス單ニ天皇及ヒ機關ノ内部ニ及フニ止マル場合アリ或ハ又直接ニ人民ニ向ヒテ發動スル場合アリ

(一) 内部ノ行動トハ第一ニ天皇カ其機關ニ對スル關係ニ於テハ先ツ天皇ハ機關ヲ構成セサルヘカラス次ニ構成サレタル機關ニ對シテ大體ノ監督ヲ行ハサルヘカラス第二ニ機關カ天皇ニ對スル關係ニ於テハ或ハ直接ニ大權ニ參照スル場合アリ然ラサル場合ト雖モ總テ天皇國法上ノ命令ニ服從シ其付與セラレタル權限ニ依リ統治ノ事務ヲ行ハサルヘカラス第三ニ機關ト機關トノ關係ニ於テハ普通上下ノ差等ヲ設ケ下ニ位スル機關ハ上ニ位スル機關ノ指揮命令ヲ守リ以テ政務ノ統一ヲ計ルモノトス但立法行政及ヒ司法ノ各機關ハ獨立シテ相侵ササルヲ原則トシ天皇ノ大權及ヒ或特別ノ機關ヲ以テ其間ノ調和ヲ企圖スルモノトス

(二) 右内部ノ行動ニ對スル外部即チ直接ニ人民ニ向ヒテ發動スル政務ハ一一此處ニ説明スヘキニ非サルナリ

本章ニ於テ大體政務執行ノ形式ヲ述ヘタリ以下更ニ進ミテ此種政務ノ中ニ在

第二章 法律

第一節 法律ノ意義

法律ノ意義ニ關シテハ學說未タ定マラス今其重ナルモノヲ舉ケレハ第一法律ヲ分チテ實質的法律及ヒ形式的法律ト爲ス說此說ハ嘗テ普國ニ於テ豫算ト法律ノ關係ニ付テ疑義ヲ生セシトキ「グナイスト」氏カ之ヲ唱道シ後「ラバンド」カ學理的ニ之ヲ祖述セシ以來獨國學者ノ多數ハ此議論ニ依ラサル者ナシ實質的法律トハ其性質議會ノ協賛ヲ必要トスヘキ事柄ノ規定ヲ謂フ而シテ形式的法律トハ右ノ如キ性質ニ非サルモ議會ノ手ヲ經テ法律ノ形式ニ依ルモノヲ指ス果シテ然ラハ性質上議會ノ協賛ヲ必要トスルモノト然ラサルモノトハ如何ニシテ區別サルカヲ論セサルヘカラス「ラバンド」派ハ曰ク實質的法律トハ法規ヲ定ムルモノナリ法規トハ人民ノ權

モ説明スヘキカ如ク一定ノ年間占有ノ繼續スルコトニ因リテ成就スルモノナルヲ以テ占有ニシテ中絶スルトキハ時効ハ自ラ中絶セラレサルヲ得サルナリ茲ニ占有ノ喪失ト稱スルハ時効ノ效力ヲ生スヘキ占有ヲ失フノ義ナルヲ以テ占有者カ事實ノ所持ヲ失フト所有ノ意思ヲ失フトノ二者ヲ併稱スルモノナリ「中絶」ハ「喪失」ニ異ナルコトヲ示ス事實ノ所持ヲ失フトハ占有者カ現實物ノ占有ヲ爲ササルニ至ラタルヲ謂フモノニシテ其占有ノ喪失タルヲ言フ須タス但他人ノ爲メニ占有ヲ奪ハレタル場合ニ於テ占有者カ占有回復ノ訴ヲ提起シ占有ヲ回復シタルトキハ占有權ハ消滅セサルカ故ニ(第二〇〇條第一項第二〇一條第三項第二〇三條此場合ニ於テハ時効ハ中絶セス)所有ノ意思ヲ失フトハ占有者カ從來所有ノ意思ヲ以テ占有シタルヲ變シテ爾後他人ノ爲メニスル意思ヲ以テ占有スルニ至ルヲ謂フ他人ノ爲メニスル意思ヲ以テ占有スルハ容假ノ占有ナルカ故ニ之ニ因リテ時効ヲ生スルコト能ハス故ニ占有者カ所有ノ意思ヲ失フト同時ニ時効ハ中絶セラルルモノナリ

(ロ) 所有權以外ノ財産權、所有權以外ノ財産權ニ付テハ一定ノ年間自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ之ヲ行使スルトキハ取得時効ヲ生ズルモノナルヲ以テ行使者ノ事實其他權利ヲ行使セザルカ又ハ行使者カ自己ノ爲メニスル意思ヲ失ヒタルトキハ時効ハ中断セラルモノナリ(第一六五條何トナレハ要件ヲ増加スルトキハ時効ハ發生スルコト能ハサルモノナルカ故ニ自ラ其中斷ヲ生セザルヲ得サルヲ以テナリ) 第二 消滅時効ニ付キ自然ノ中断アルコトヲ規定セスト雖モ不行使ニ因リ消滅時効ニ付キ權利ニ付キ時効ノ進行中其權利ノ行使ヲ爲ストキハ消滅時効ハ之ニ因リテ中断セラルヘキカ故ニ消滅時効ニ付テモ亦自然ノ中断ナルモノ存スルモノト謂ハサルヘカラス勿論所有權ニ付テハ消滅時効ナルモノ存セス又債權ニ付テハ其行使ハ常に法律行為ノ形式ニ於テ發現スルカ故ニ自然ノ中断ナルモノヲ認ムルノ要ナシト雖モ其他ノ財産權特ニ地役權ノ如キハ權利者カ之ヲ行使セザルトキハ消滅時効ハ其進行ヲ始ムルモノナリ而シテ其進行シタル時効ハ權利者カ其權利ヲ行使スルコト(例ヘハ通行ノ地

役權ニ在リテハ通行ヲ爲スコト汲水ノ地役權ニ在リテハ汲水ヲ爲スコトニ因リテ中断セラルヘキハ當然ナルヲ以テ此場合ニ於テ權利ノ行使ハ自然ニ時効ヲ中断スルモノナリ 乙 法定ノ中断 凡ソ時効ナルモノハ權利者カ多年其權利ノ行使ヲ爲ササルニ因リテ生ズルモノナルカ故ニ權利者カ其權利ノ行使ヲ爲ストキハ時効ハ之ニ因リテ中断セラレサルヘカラス又時効ナルモノハ多年平穩ニ繼續シタル事實ヲ法律上ニ確定スルノ趣旨ニ出テタルモノナルカ故ニ時効ノ利益ヲ受クヘキ者カ自ラ追テ權利者ノ權利ヲ認メタル場合ニ於テハ之ヲシテ時効ノ利益ヲ受クシムルノ必要ナキモノナリ故ニ時効ハ其取得時効タルト消滅時効タルト問ハス左ノ事由アルトキハ中断セラルモノトス(第一四七條) 一 請求 二 差押、假差押、假處分 三 承認 民法總則 時効 權利

右ノ原因ニ付テ簡短ニ説明スルトキハ左ノ如シ
一 請求 法律ハ廣ク請求ヲ以テ時效中斷ノ原因ト爲シ何等ノ制限ヲ加ヘザルヲ以テ裁判上ノモノタルト將タ裁判外ノモノタルトヲ問ハス總テ請求ハ時效ヲ中斷スルモノナリ今之カ細別ヲ掲クルトキハ左ノ如シ
(イ) 裁判上ノ請求 裁判上ノ請求トハ訴訟ノ形式ヲ以テスル請求ニシテ權利者カ其權利ヲ行使スル意思ヲ最モ確實ニ表示シタルモノナリ故ニ其時效ヲ中斷スヘキハ論ヲ須タス但目的ヲ達スルコトヲ得ヘキ請求ニ非テレハ眞ニ確實ナル請求ト謂フヘカラサルヲ以テ左ノ場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ナキモノトス(第一四九條)
(ロ) 訴ノ却下アリタルトキ 訴ノ却下トハ裁判所カ請求者ノ主張ヲ以テ理由ナシトシテ却下シタルトキト管轄違又ハ方式違反トシテ却下シタルトキト
(ハ) 二ノ場合ヲ包含ス本案ニ於テ請求ノ却下アリタル場合ニ於テハ復タ時效中斷ノ有無ヲ論スルノ要ナキカ如シト雖モ判決ノ效力ハ當事者ノ間ニ止マルモ時效中斷ノ效力ハ不可分債權者連帶債權者又ハ保證人ニ及フモノナル

ヲ以テ若シ第四百四十九條ノ規定ナキトキハ例ヘハ不可分債權者ノ一人カ本案ノ請求ニ於テ敗訴シタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ時效中斷ヲ主張スルコトヲ得ルノ不都合ヲ生スヘシ故ニ此場合ニ於テモ亦時效ハ中斷セサルモノナルコトヲ規定スルノ必要アルモノナリ管轄違又ハ方式違反ノ爲メニ訴訟カ却下セラレタルトキハ訴訟ハ却下セラレタルモ權利者カ其權利ヲ實行セントスルノ意思ハ明カニ之ヲ認ムヘキヲ以テ時效中斷ノ效力ヲ生セシムルモ差支ナキカ如シ舊民法ハ實ニ此趣旨ヲ以テ此場合ニ於テモ亦時效ハ中斷セラルルモノト爲シタリ新民法力之ヲ取ラサリシハ違法ナル訴訟ハ訴訟ナキニ異ナラズトノ單純ナル理論ニ出テタルモノナルヘシ

(ロ) 訴ノ取下アリタルトキ 請求者カ自ら進テ訴ヲ取下ケ又ハ一箇年間訴訟手續ヲ休止シタル爲メ訴ノ取下ヲ爲シタルモノト看做サレタルトキハ民事訴訟法第一八八條請求者ハ其主張ヲ拋棄シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ時效ハ中斷ヒサルモノトス
(ハ) 支拂命令ノ申請 支拂命令トハ督促手續ニ依リ裁判所カ債務者ニ對シテ

發スル命令ナリ民事訴訟法第三八二條乃至第三九五條迄拂命令ノ申請ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラサルモノナリト雖モ之ニ依リテ其權利ノ實行ヲ得ントスルノ意思ハ確實ナルモノナルヲ以テ時效中斷ノ原因ト爲ルモノナリ然レトモ債權者カ其爲スヘキ手續ヲ爲サスシテ權利拘束ノ效力ヲ失フニ至リタルトキハ債權者ハ其權利ヲ伸長スルノ確實ナル意思ナキモノト看サルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ時效ヲ中斷スル效力ヲ生セス(第一五〇條)

(ハ)和解ノ爲メニスル相手方呼出ノ申立又ハ雙方ノ任意出頭ノ和解ハ自己ノ權利ノ一部ヲ犧牲トシテ他ノ部分ヲ完ウスルノ方法ナルヲ以テ和解ノ爲メニ相手方ヲ呼出スノ申立ヲ爲シ又ハ雙方任意ニ裁判所ニ出頭シテ和解ヲ爲サントスルハ之ニ因リテ權利ノ實行ヲ得ントスルモノナリ故ニ之ヲ以テ時效中斷ノ一原因ノ爲スヘキハ當然ナリ然レトモ相手方カ呼出ニ應ジテ出頭セザルトキ又ハ相手方カ呼出ニ應ジ若クハ任意ニ出頭スルモ和解ノ調ハサルトキハ和解ナル方法ニ依リテ權利ヲ伸長スルノ目的ハ之ヲ達スルコトヲ得サルニ至リタルモノナリ故ニ權利者ニシテ眞ニ其權利ノ實行ヲ得ントスルノ意思アラス

訴訟ノ手續ニ依リテ其目的ヲ達スルノ手段ヲ取ルヘキハ相當ノ順序ナリ然ルニ若シ權利者ニシテ相當ノ期間内ニ訴ヲ提起セザルトキハ權利者ハ其權利ノ實行ヲ爲スル確實ナル意思ナキモノト謂フモ辯スルニ辭ナカレハシ故ニ和解ノ爲メニスル呼出又ハ任意出頭カ時效中斷ノ效力ヲ生スルハ其不調ト爲リタル時又ハ相手方カ出頭セザリシ時ヨリ一箇月以内ニ訴ヲ提起スルコトヲ條件トスルモノナリ(第一五一條)

(ニ)破産手續參加ノ債權者カ破産手續ニ參加スルハ其權利ヲ行使スルモノナリ故ニ破産手續ノ參加ハ時效ノ中斷ヲ爲スモノトス舊商法第一〇二五條乃至第一〇二八條然レトモ若シ債權者カ自ラ其參加ヲ取消シタルカ又ハ裁判所ニ於テ其請求ヲ却下シタルトキハ參加ナキト同一ニ歸スルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス(第一五二條)

(ホ)催告ノ催告トハ義務ノ履行ヲ督促スルモノニシテ普通ノ請求方法ナリ而シテ時效ハ之ニ因リテ中斷セラザルモノトス法律ハ時效ヲ中斷スヘキ催告ノ方法ヲ限定セザルカ故ニ如何ナル方法ヲ以テスルモ可ナリト雖モ他日ノ設左

ト爲サントセハ軌道吏ヲ以テ之ヲ爲スコト最モ適當ナルヘシ催告ハ一種ノ權利實行方法ナルヲ以テ時効ヲ中斷スルモノナリト雖モ元來請求ノ最モ輕易ナル方法ナルヲ以テ催告ヲ爲シタルノミニテハ未ダ權利者カ其權利ヲ實行スルノ確的ナル意思ヲ有スルコトヲ知ルコト能ハス故ニ催告ヲ爲シタル後權利者カ六箇月以內ニ裁判上ノ請求和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭破産手續參加差押假差押又ハ假處分ヲ爲シ以テ其實行ノ意思ノ確的ナルコトヲ示スニ非サレハ催告ハ時効中斷ノ效力ヲ生セサルモノナリ第一五三條

二 差押假差押及ヒ假處分 差押假差押及ヒ假處分ハ強制執行ノ方法ナリ權利者カ強制執行ヲ爲サシメタルトキハ依テ以テ權利實行ノ意思ノ確實ナルコトヲ見ルニ足ル故ニ時効ハ之ニ因リテ中斷セラルモノトス但時効ヲ中斷スル強制執行ハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ有效ナルモノナラサルヘカラス隨テ左ノ場合ニ於テハ差押假差押及ヒ假處分ハ時効中斷ノ效力ヲ生セサルモノトス對時効中斷ノ事實ニ當リ得ル内ニ爲シ得ルモノナリ

(a) 權利者ノ請求ニ因リ差押假差押又ハ假處分ヲ取消サレタルトキ(第一五四

條

(b) 差押假差押又ハ假處分カ法律ノ規定ニ從ハサルカ爲メ取消サレタルトキ

(第一五四條)

(c) 時効ノ利益ヲ受クヘキ者以外ノ者ニ對シテ爲サレタル差押假差押又ハ假處分カ時効ノ利益ヲ受クヘキ者ニ通知セラレサルトキ(第一五五條例ハハ第

三者ノ提供シタル抵當物ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ其差押ヲ債務者ニ通知スルニ非サレハ時効中斷ノ效力ヲ生セス蓋シ時効ノ利益ヲ受クヘキ者カ其中斷ノ原因アルコトヲ知ルニ先テ中斷ノ效力ヲ生スルコトアルヘカラサルヲ以テナリ

三 承認 承認トハ物ノ占有若クハ權利ノ行使ヲ爲ス者又ハ債務者カ時効ニ因リ權利ヲ失ハントスル者ノ權利ヲ認ムルヲ謂フ時効ノ利益ヲ受クヘキ者カ權利者ノ權利アルコトヲ承認シタル場合ニ於テハ之ヲシテ時効ノ利益ヲ受ケシムヘキ理由ナシ故ニ承認ハ時効ヲ中斷スルモノナリ

承認ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得默示ノ承認ハ事實ニ因リテ生ス

ルモノニシテ舊民法證據編第一百九條ハ其二ヲ舉示シタリ但是レ例示ニ過
キス之ヲ以テ默示ノ承認ヲ列舉シタルモノト爲スヘカラス
時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ如何ナル能力ヲ有セサルヘカラサ
ルヤ此問題ニ對シテハ左ノ三様ノ學說アルカ如シ
(a) 處分ノ能力ヲ要スト爲ス說 此說ニ依レバ承認ハ之ヲ以テ直チニ權利ノ
拋棄ト謂フコト能ハスト雖モ時效ノ成就ハ之ニ因リテ妨ケラルモノナル
ヲ以テ取得スヘキ權利ヲシテ取得スルコト能ハサルニ至ラシムルモノナリ
故ニ承認ハ一種ノ處分ナリト云フニ在リ
(b) 管理能力アレハ足レリト爲ス說 此說ヲ主張スル者ハ曰ク他人ノ權利ヲ
認ムルハ管理行為ナリ何トナレハ他人ニ權利アルニモ拘ハラス之ヲ認メサ
ルトキハ時ニ之ヨリ生スル責任ヲ負ハサルヘカラスシテ自己ノ財産ヲ保存
シ又ハ利用スル所以ニ非ス故ニ管理能力アル者ハ總テ時效ヲ中斷スヘキ承
認ヲ爲スコトヲ得ルモノナリト
(c) 折衷說 折衷說ハ取得時效及ヒ物權ノ消滅時效ニ付テハ處分能力ヲ有ス

ルコトヲ要スルモ債權ノ消滅時效ニ付テハ處分能力ヲ有スルコトヲ要セス
ト爲スモノニシテ其理由トスル所ハ取得時效及ヒ物權ノ消滅時效ニ付テハ
相手方ノ權利ヲ承認スルハ自己ノ權利ヲ拋棄スルモノナルカ故ニ必ス處分
ノ能力ヲ有セサルヘカラス之ニ反シテ債權ノ消滅時效ニ付テハ承認ニ因リ
時效ヲ中斷スルハ辨濟ニ因リ時效ヲ中斷スルト輕重アルコトナシ而シテ辨
濟ハ管理能力アル者之ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ承認モ亦管理能力
アル者之ヲ爲スコトヲ得サルヘカラスト云フニ在リ
我民法ハ管理能力說ヲ取リ時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方
ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セスト爲シタリ(第一五六條而
シテ理論ヨリ見ルモ此說ハ最モ其當ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ヘシ
第二 時效中斷ノ效力
一 中斷ノ效力
時效ノ中斷ハ既ニ經過シタル期間ノ利益ヲ消滅セシムルノ效力ヲ生スルモノ
ナリ然レトモ中斷ハ時效ノ再始ヲ妨ケサルモノナルヲ以テ中斷ノ原因ニシテ

終了スルトキハ時効ハ再ヒ其進行ヲ開始スルモノナリ(第一五七條第一項)自然ノ中斷原因ハ取得時効ニ付テハ時効ノ利益ヲ受クヘキ者カ再ヒ物ノ占有又ハ權利ノ行使ヲ爲スコトニ因リテ終了スルモノナルカ故ニ新時効ハ其時ヨリ其進行ヲ開始シ消滅時効ニ付テハ權利者カ再ヒ其權利ヲ行使セサルニ至ルコトニ因リ終了スルヲ以テ新時効ハ其時ヨリ之ヲ起算セサルヘカラス法定ノ中斷原因ハ其原因ノ目的トシタル效力ヲ生シタル時ヲ以テ終了スルモノト爲ササルヘカラスアルヲ以テ裁判上ノ請求ハ其請求ヲ認メタル判決ノ確定シタル時ヨリ(第一五七條第二項)支拂命令ノ申請ハ其送達アリタル時ヨリ和解ノ爲メニスル呼出又ハ任意出頭ハ和解ノ成立シタル時ヨリ破産手續参加又ハ差押假差押及ヒ假處分ハ手續又ハ執行行為ノ終了シタル時ヨリ催告又ハ承認ハ其意思表示ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ新時効ヲ開始スヘキモノトス時効ノ中斷ハ既ニ經過シタル期間ノ利益ヲ消滅セシムルノ外向キ時効ノ性質ヲ變スルノ效力アルモノナルヤ否ヤ例ヘハ中斷アルトキハ短期ノ時効ハ變シテ長期ノ時効ト爲ルカ如キ效力ヲ生スルモノナルヤ否ヤ此問題ハ中斷原因中

主トシテ承認ニ付テ起ルモノナリ蓋シ承認トハ時効ノ利益ヲ受クヘキ者カ權利者ニ權利アルコトヲ認ムルヲ謂フモノナルヲ以テ之ニ因リテ自ラ權利ナキコト又ハ義務アルコトヲ表白スルモノナリ隨テ權利者及ヒ義務者ノ法律關係ハ承認ニ因リ確證ヲ得ルニ至ルノミナラス物ノ占有者又ハ權利ノ行使者ハ承認ト同時ニ善意者タルコトヲ喪失スルモノナリ舊民法ハ實ニ此理由ニ因リ承認ナル中斷原因ヲ以テ時効ノ性質ヲ變スルノ效力ヲ生スルモノト爲シタリ舊民法證據編第一二〇條第一二一條(然レトモ時効ノ期間ハ一ニ權利ノ性質ニ依リテ定マルヘキモノナルヲ以テ權利ノ性質ニシテ變更セサル限リ獨リ時効ノ性質ノミ變更セラルヘキ理アルコトナシ而シテ權利ヲ承認スルトハ從來ノ權利ヲ認ムルモノニシテ少シモ其權利ヲ變更スルコトオキカ故ニ承認ナル中斷原因後ニ開始スル新時効ハ當初ノ時効ト其期間ヲ異ニスヘキモノニ非ス況ヤ取得時効ニ付テハ我新民法ハ短期時効ノ條件トシテハ占有ノ初ニ於テ善意ナルコトヲ要スト爲シタルヲ以テ中途ニ於テ善意者タルコトヲ失フモ之ニ因リテ時効ノ期間ニ影響スヘキモノニ非サルニ於テヲヤ故ニ此點ニ於テ特ニ規定

スル所ナキ 新民法ノ下ニ於テハ本問題ニ對シ消極ノ決定ヲ與ヘサルヲ得サルナリ

二 中斷ノ效力ノ範圍 中斷ノ效力ハ各事物ニ限定スルモノナリ故ニ甲 事物ニ對スル效力ノ範圍 中斷ノ效力ハ各事物ニ限定スルモノナリ故ニ或土地ヲ占有シタル者カ其土地ノ半分ニ付キ占有ヲ喪失シタルトキハ其部分ニ付テハ時效中斷セラルルモ他ノ半分ニ付テハ時效ハ中斷セラルルモノニ非ス又同一ノ人ニ對シ二箇ノ債權ヲ有スル者カ其一ノ債權ニ付キ請求ヲ爲スモ他ノ債權ニ對スル時效ノ進行ハ何等ノ妨ヲ受タルモノニ非サルナリ但茲ニ二箇ノ債權ト稱スルハ二箇相獨立シタル債權ヲ謂フ利息附債權ノ如ク利息ノ請求權ト元金ノ請求權トハ之ヲ分離スルコトヲ得サルニ非サルモ互ニ相關聯シタル關係ヲ有スルモノニ在リテハ一ノ請求ヲ爲スコトハ明カニ他ノ一ニ付キ權利ヲ保存スルノ意思アルコトヲ見ルニ足ルモノナルヲ以テ利息ノ請求ハ元金ニ對スル請求權ノ時效ヲ中斷シ元金ノ請求ハ利息ニ對スル請求權ノ時效ヲ中斷スルモノナリ

乙 人ニ對スル效力ノ範圍 自然ノ中斷ニ付テハ何人ト雖モ之ヲ援用スルコトヲ得ルモノナリ何トナレハ自然ノ中斷ハ時效ノ利益ヲ受テヘキ者ニ付テ生スル事實ニシテ之ヲシテ時效成就ノ要件ヲ缺カシムルニ至ルモノナルヲ以テナリ之ニ反シテ法定ノ中斷ハ當事者及ヒ當事者ト同視セラルヘキ承繼人ノ間ニ於テノミ其效力アルモノニシテ他人ハ之ヲ援用スルコト能ハス何トナレハ法定ノ中斷ハ或人ニ對スル行為ナルヲ以テ其行為ハ他人ニ對シテ效力ヲ生スヘキモノニ非サルヲ以テナリ(第一四八條)

法定ノ中斷ハ當事者又ハ當事者ノ承繼人間ニ於テノミ效力ヲ生スルコトニ對シテハ左ニ掲タル例外アルモノトス

(イ) 共有者ノ一人カ時效ノ中斷ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ共有者ハ之ヲ援用スルコトヲ得(第二五二條、第二六四條)

(ロ) 不可分債權者ノ一人カ時效ノ中斷ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者モ亦其效力ヲ對抗スルコトヲ得(第四二八條)

(ハ) 連帶債務者ノ一人ニ對シ時效ノ中斷ヲ爲シタルトキハ他ノ債務者ニ對シ

テモ之ヲ援用スルコトヲ得第四三四條ノ民法カ不可分債務者ニ付テ明カニ第四百三十四條ノ規定ヲ準用スヘキモノト定メサリ理由ヲ解スルニ苦ムモノナリ
(二)主タル債務者ニ對スル時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス(第四五七條)

第五款 時効ノ停止

時効ノ停止トハ一定ノ原因ノ存スル間時効ヲシテ進行セシメス其原因消滅スルニ至リテ更ニ其進行ヲ繼續シ前後ノ期間ヲ通シテ時効ノ期間ヲ計算スヘキヲ謂フ其中斷ト異ナル所ハ中斷ニ在リテハ既ニ經過シタル期間ノ利益ハ全然消滅スルモノナルニ反シテ停止ニ在リテハ其利益消滅セス之ヲ後ニ繼續スル期間ニ通算スヘキモノナルノ點ニ在リテ存スルモノトス凡ソ時効ナルモノハ權利者カ怠慢ニ因リ其權利ヲ實行セサル場合ニ於テ多年繼續シタル狀態ヲ確定スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ故ニ權利者カ權利ノ實行ヲ爲ササルモ其不

行為カ怠慢ニ出テタルニ非サル場合ニ於テハ時効ハ之ヲ進行セシメサルヲ相當トス法律カ時効ノ停止ナルモノヲ認メタルハ實ニ權利者カ權利ヲ實行スルコト能ハサルカ爲メ之ヲ實行セサル場合ニ於テ其原因ノ存スル間其進行ヲ停止スルノ趣旨ニ外ナラサルナリ
時効ノ停止ヲ認メタル趣旨ハ上記ノ如シト雖モ元來公益上ノ制度ナル時効ニ對シテ之カ進行ヲ停止スルコトハ變態ニ屬スルモノナルヲ以テ其場合ハ限定的ナラサルヘカラス我民法ハ左ノ場合ニ限り時効ハ停止セラルルモノト爲シタリ
一 時効ヲ對抗セラルヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキ
二 時効ヲ對抗セラルヘキ者カ身分上一種ノ關係ヲ有スルトキ
三 相續開始シタルトキ
四 時効ヲ對抗セラルヘキ者カ事變ノ爲メ時効ヲ中斷スルコト能ハサルト
第一 未成年又ハ禁治產ニ起因スル時効停止

未成年者又ハ禁治產者ハ行爲能力ヲ有セサルモノナルヲ以テ時ニ其權利ヲ實行スルコト能ハサルコトアルモノナリ故ニ之ニ對シテ時効ノ停止ヲ爲スハ相當ナリ第百五十八條ニ依レハ時効ノ期間満了前六箇月内ニ於テ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セザリシトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六箇月内ハ之ニ對シテ時効完成セサルモノトス無能力者ニ對スル時効ノ停止ニ付テハ各國ノ立法例相同シカラス佛國民法ニ於テハ時効ハ未成年者又ハ禁治產者ニ對シテ進行セサルモノト爲シタルカ故ニ佛國民法第二二五條未成年者カ成年ニ達スルマテ又ハ禁治產者カ禁治產ノ宣告ノ取消アルマテハ數十年間ト雖モ時効ハ停止セラルルモノナリ此立法例ハ無能力者ヲ保護スルコト厚キニ過キ爲メニ時効ナル制度ヲ設ケタル趣旨ヲ沒了スルノ虞アルモノナリ我舊民法ハ短期時効ト長期時効トヲ區別シ長期時効ニ付テハ時効ハ最後ノ一箇年ノミ未成年者又ハ禁治產中停止セラルルモノト爲シタリ(舊民法證據編第一二一條)未成年者又ハ禁治產中ト雖モ時効カ其進行ヲ繼續スルノ一點ハ佛國民法ニ比シ期間ノ延長ヲ防クノ長所アリト雖モ最後ノ一

箇年カ未成年者又ハ禁治產中停止セラルルカ爲メ此立法例ニ依ルモ場合ニ依リテハ數十年間時効ノ完成セラルコトアルヲ免レサルモノナリ獨逸民法ニ於テハ時効ハ無能力者ニ對シテモ其進行ヲ繼續スルモ無能力者カ法定代理人ヲ缺クトキニ限リ一定ノ期間内之ニ對シテ完成セサルモノト爲セリ(獨逸民法第二〇六條)故ニ此制ニ依レハ甚シク時効ノ期間ヲ延長スルカ如キ場合ハ生セザルナリ我新民法ノ取リタル主義ハ正シク獨逸民法ノ主義ニ一致スルモノナリ蓋シ未成年者又ハ禁治產者ニ對シテ時効ヲ停止スルハ權利ヲ行使スルコト能ハサルカ故ニ時効ヲ中斷スルコト能ハサル者ニ對シテハ時効ヲ完成セシメザラントスルニ因ルモノナリ未成年者又ハ禁治產者ニシテ法定代理人ヲ有スルトキハ法定代理人ニ因リテ時効ノ中斷ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス法定代理人ハ財產管理ノ責任トシテ時効ノ中斷ヲ爲スヘキ義務ヲ有スルモノナルカ故ニ之ニ對シテ時効ヲ停止セシムヘキ理由アルコトナシ故ニ時効ノ停止ヲ法定代理人ナキ場合ニ限リタルハ未成年者及ヒ禁治產者ノ保護ヲ失ハサルト同時ニ時効ヲ設ケタル所以ノ趣旨ヲ完ウスルモノニシテ能ク二箇ノ公益上ノ必要ヲ

調和シタルモノト謂フヘシ
第五百五十八條ニ依レハ時效ヲ對抗セラルヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナル
トキト雖モ時效ハ之ニ對シテ進行スルモノナリ唯未成年者又ハ禁治產者ハ時
效ノ期間カ滿了セントスル前六箇月以前ヨリ法定代理人ヲ有セサルカ又ハ六
箇月以内ニ於テ之ヲ有セサルニ至リタルトキハ左ノ期間時效ハ其進行ヲ停止
セラルルモノナリ

(イ) 時效期間滿了前六箇月以前ヨリ法定代理人ナキトキハ時效期間滿了前六
箇月ニ始マリ未成年者又ハ禁治產者カ能力者ト爲リタル時ヨリ六箇月ヲ經
過スルマテ又ハ新任セラレタル法定代理人カ就職シタル時ヨリ六箇月ヲ
經過スルマテノ期間

(ロ) 時效滿了前六箇月以内ニ於テ法定代理人ヲ缺クニ至リタルトキハ法定代
理人カ缺如シタル時ヨリ始マリ未成年者又ハ禁治產者カ能力者ト爲リタル
時ヨリ六箇月ヲ經過スルマテ又ハ新任セラレタル法定代理人カ就職シタ
ル時ヨリ六箇月ヲ經過スルマテノ期間

未成年者又ハ禁治產者カ能力者ト爲リタル時又ハ新任セラレタル法定代理
人カ就職シタル時ヨリ更ニ六箇月間時效ヲ停止シタルハ調査ノ期間ヲ與フル
ノ趣旨ニ出ラタルモノナリ
第五百五十八條ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ付テノミ時效ノ停止ヲ規定シタルヲ
以テ其以外ノ無能力者即チ準禁治產者及ヒ妻ニ對シテハ同條ノ適用ヲ爲スヨ
ト能ハス又同條ハ之ニ對シテ時效完成セスト規定スルヲ以テ未成年者又ハ禁
治產者ニ對抗スヘキ時效ハ停止セララルルモ未成年者又ハ禁治產者カ他
人ニ對抗スヘキ時效ハ停止セララルルモノニ非サルナリ
第二 身分上ノ關係ニ起因スル時效ノ停止
未成年ノ子カ其財産ヲ管理スル父又ハ母ニ對シテ有スル權利ヲ實行スヘキ場
合ニ於テハ父又ハ母ハ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要シ第八
八條被後見人カ後見人ニ對シテ有スル權利ヲ實行スヘキ場合ニ於テハ後見
監督人被後見人ヲ代表スヘキモノナリ(第九一五條ト雖モ反對ノ利害ヲ有スル
父又ハ母ヲシテ自ラ其利益ト爲ルヘキ時效ノ中断ヲ爲スニ勉ムヘキ責任ヲ負

ハシムルモ其實行ヲ望ムコトハ頗ル難事ニ屬スヘク又後見監督人ハ常ニ被後見人ノ財産ヲ管理セサルヲ以テ其權利カ將ニ時效ニ罹ラントスルコトハ之ヲ知ラサル場合尠カラサルヘシ故ニ此ヲ如キ場合ニ於テ時效其進行ヲ繼續スヘキモノトセハ未成年者又ハ被後見人ノ利益ハ法律上相當ノ保護ヲ得タルモノト謂フコト能ハス故ニ法律ハ無能力者カ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者カ能力者ト爲リタル時ヨリ六箇月ヲ經過スルマテ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六箇月ヲ經過スルマテ時效其進行ヲ停止スルモノト爲シ以テ無能力者ノ保護ヲ完ウスルコトヲ勉メタリ(第一五九條第一項)

夫ハ多クハ妻ノ財産ヲ管理スルモノナルニ依リ第八〇一條妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ未成年ノ子カ其財産ヲ管理スル父又ハ母ニ對シテ有スル權利ト類似シタル事情ノ下ニ在ルカ故ニ後者ニ付テ時效停止ヲ認ムル以上ハ前者ニ付テモ亦之ヲ認ムルコト相當ナリ且夫カ妻ノ財産ヲ管理セサル場合ニ於テモ妻カ夫ニ對シテ權利ヲ實行スルコトハ時ニ夫婦間ノ平和ヲ破ルノ虞アル

ヲ以テ妻ハ其權利ノ實行ヲ爲スニ躊躇スル場合多カルヘシ故ニ法律ノ規定ヲシテ人情ト背馳スルコトナカラシメントセハ妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ夫カ其財産ヲ管理スルト否トヲ問ハズ時效ノ進行ヲ停止セシムルヲ相當トス是レ第五百五十九條第二項カ妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六箇月内ハ時效完成セスト爲シタル所以ナリ同條ハ時效ノ停止ヲ妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ限定シタリト雖モ夫カ妻ニ對シテ有スル權利ニ付テモ亦予ハ同一ノ理由ヲ以テ時效ノ停止ヲ認ムルヲ可トスルモノナリ

第五百五十九條ハ無能力者カ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利及ヒ妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ廣ク時效ノ停止ヲ規定シ期間ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ苟モ同條ニ規定シタル事情ノ存スル間ハ總テ時效ハ停止セラルルモノナリ予ハ同條ニ於テ第五百五十八條ノ場合ノ如ク時效ノ期間満了前六箇月ヨリ始メテ同條ノ規定シタル時マテ時效ヲ停止スルヲ相當ト爲スモノナリ

第三項相續ニ起因スル時效ノ停止

相續開始シタル後相續人確定スルカ又ハ財産管理人選任セラルルカ若クハ破産ノ宣告ニ因リ管財人カ相續財産ヲ管理スルニ至ルマテハ被相續人ニ對シ權利ヲ有シタル者ハ相手方ナキヲ以テ其權利ヲ實行スルニ由ナク又被相續人ノ有シタル權利ハ之ヲ實行スル者ナキヲ以テ時効ノ中斷ヲ爲スコト能ハサルヘシ故ニ若シ此ノ如キ場合ニ於テ時効ハ其進行ヲ繼續スルモノトセハ權利ハ之ヲ實行スルコト能ハサル場合ニ於テ時効ニ罹リテ消滅スルカ如キ不幸ヲ生スヘシ故ニ法律ハ相續開始シタル時ニ始マリ相續人確定スルカ又ハ管理人選任セラルルカ若クハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六箇月ヲ經過スルマテハ被相續人ノ有シタル權利ニ付テモ又被相續人ニ對シテ有シタル權利ニ付テモ其時効ハ停止セラルルモノト爲シタリ(第一六〇條)

舊民法ハ廣ク相續財産ニ關スル時効ノ停止ナルモノヲ認メタリシニ反シ新民法カ之ヲ認ムルニ至リタル所以ハ以上記述スル所ノ如クナルヘシ然レトモ相續人アルトキハ其者ハ未タ確定ノ相續人ト爲ラサルモ尙ホ相續財産ヲ管理スルノ義務ヲ有シ(第一〇二條)相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ

法人ト爲リ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ選任スヘキモノナルヲ以テ第一〇五一條第一〇五二條被相續人ノ有シタル權利又ハ被相續人ニ對シテ有シタル權利ハ其ニ之ヲ實行スルノ途ナキモノニ非ス故ニ此場合ニ於クル時効停止ノ理由ハ頗ル薄弱ナリ若シ強ヒテ論スルトキハ相續人アルモ未タ確定スルニ至ラサルトキハ被相續人ノ權利ヲ實行スルコトニ熱心ヲ缺クコト多カルヘク又相續人アルコト分明ナラサルトキハ時ニ相續開始後裁判所カ管理人ヲ選任スルマテノ間ニ於テ時効ノ成就スルコトアルヘキヲ以テ權利ノ保護ヲ完ウセントセハ此場合ニ於テハ時効ヲ進行セシメサルヲ可トスト謂フコトヲ得ヘシ

又第六十條ハ被相續人ノ有シタル權利ニ付テモ又被相續人ニ對シテ有シタル權利ニ付テモ其ニ相續人ノ確定シ管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六箇月内ハ時効完成セサルモノト爲シタリ相續財産ニ關シ時効ノ停止ヲ爲スヲ可ナリトモハ被相續人ノ有シタル權利ニ付テハ一定ノ狀態ノ止ミタル後更ニ六箇月ノ期間ヲ與ヘテ調査ヲ爲スコトヲ得セシムルハ相當ノ事

ナルヘシト雖モ被相續人ニ對シテ有シタル權利ニ付テハ調査ヲ要スヘキ事情ナキヲ以テ何故ニ六箇月ノ期間ヲ與ヘタルヤハ予ノ理解スル能ハサル所ナリ
 第四 事變ニ起因スル時効ノ停止
 時効ノ期間ノ滿了スル時ニ當リ天災其他避クベカラサル事變ノ爲メ時効ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ二週間内ハ時効完成セサルモノナリ(第一六一條蓋シ權利ヲ行使スルコトヲ怠ルニ因リ權利ヲ喪失セシムヘキ場合ニ於テハ權利ヲ行使スルコト能ハサルニ因リ之ヲ行使セサル者ニ對シ其權利ヲ喪失セシムヘキモノニ非サルヲ以テナリ)
 第六十一條ハ時効期間滿了ノ時ニ當タリト規定スルヲ以テ事變ハ常ニ時効ヲ停止スルニ非ス唯期間滿了ノ時ニ當リテ生シタル事變ノミ時効ヲ停止スルモノナリ而シテ同條ノ規定全體ヨリ見ルトキハ事變後二週間以内ニ時効ノ滿了スヘキ場合ニ於ケル事變ハ之ヲ以テ期間滿了ノ時ニ當リタル事變ナリト謂ハサルヘカラス又同條ハ「天災其他避クベカラサル事變ノ爲メ」ト言フヲ以テ同條ニ依リ時効ノ停止アルハ時効ヲ中斷スルコト能ハサル原因カ事變ニ在ルト

キナラサルヘカラス故ニ近距離ニ在リシ裁判所カ廢止セラレタルニ因リ遠距離ノ裁判所ニ起訴スルヲ要スルニ至リ爲メニ時効ノ中斷ヲ爲スコトヲ得ナリシカ如キハ時効停止ノ原因ト爲ラス我民法ハ單純ノ催告ヲ以テ時効中斷ノ原因ト爲シタルカ故ニ時効ヲ對抗セラルヘキ者ハ容易ニ之カ中斷ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ立法者ハ事變以外ニ停止原因ヲ擴充スルノ必要ヲ見サリシナリ

第二節 取得時効

取得時効ハ所有權ニ付テハ他人ノ物ヲ占有スルコトニ因リ所有權以外ノ財產權ニ付テハ其權利ヲ行使スルコトニ因リ成就スルモノナリ第一六二條第一六三條財產權トハ物權債權著作權等ヲ併稱スル用語ナルヲ以テ時効ハ所有權又ハ其他ノ物權若クハ著作權等ノ取得原因タルノミナラス債權ト雖モ亦時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ法律ハ財產權ニ付テノミ取得時効ヲ定メタルヲ以テ財產權以外ノ權利ハ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコト

能ハサルモノトス但財産權以外ノ權利ト雖モ消滅時効ニ罹ルヘキモノハ消滅時効成就ノ結果トシテ事實上ノ法律關係確定スルニ至ルコトアルハ勿論ナリ
第一 通則 第三百六十二條第一項ニ依レハ二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ所有權ノ取得時効ヲ生ズルコトナシ何トナレハ取得時効ハ事實ヲ其儘ニ
第三百六十二條第一項ニ依レハ二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有スルトキハ其所有權ヲ取得スルモノトス即チ所有權ノ取得時効ハ普通ハ二十年間ノ占有ニ因リテ成就スルモノナリ但其占有ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(イ) 占有ハ所有ノ意思ヲ以テセラルルコトヲ要ス 取得時効ハ占有者カ自ラ占有物ノ所有者ナリトシテ之ヲ占有スル場合ニ於テ始メテ生ズルモノナリ故ニ占有者カ他人ノ爲メニ物ヲ占有スルノ意思ヲ有スルトキハ其占有ハ如何ニ多年ニ渉ルモ取得時効ヲ生ズルコトナシ何トナレハ取得時効ハ事實ヲ其儘ニ認メテ權利ト爲スモノナルヲ以テ他人ノ爲メニスル意思ヲ以テ占有ヲ爲ス事實ハ之ヲ自己ノ爲メニスル意思アル所有權ト認メントスルモ得ヘカラサルヲ

以テナリ但法律ハ所有ノ意思ヲ以テスルコトヲ要スト爲シタルノミニシテ自ラ所有者ナリト信スルコトヲ要スト爲シタルニ非サルヲ以テ惡意者ト雖モ所有ノ意思ヲ以テ物ヲ占有スルトキハ時効ニ因リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケサルモノナリ

(ロ) 占有ハ平穩ナルコトヲ要ス 平穩ニ物ヲ占有スルトハ強暴ニ依リテ占有スルニ非サルヲ謂フ暴力ニ依リテ僅ニ維持スル占有ハ之ヲ認メテ權利ト爲スヘキ理由ナキヲ以テ時効ノ利益ヲ享クヘキ占有ハ常ニ平穩ニ維持セラルルモノナラサルヘカラス

(ハ) 占有ハ公然ナルコトヲ要ス 取得時効ハ事實ヲ認メテ權利ト爲スモノナルカ故ニ占有ニ因リ所有權ヲ取得セントセハ占有者ハ所有者ト同一ノ方法ニ依リ物ノ占有ヲ爲ササルヘカラス所有者カ物ヲ占有スルハ決シテ隱祕ノ裡ニ於テ之ヲ爲スモノニ非ス故ニ占有者モ亦公然ニ其占有ヲ爲スニ非サレハ取得時効ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス特ニ取得時効ハ所有者シテ所有權ヲ喪失セシムルモノナルヲ以テ所有者カ知ルコトヲ得サル狀態ニ於ケル占有ニ對シ時

効ノ成就ヲ認ムルコトアルヘカラス法律カ取得時効完成ノ要件トシテ占有ノ公然ナルコトヲ要スト爲シタルハ此理由ニ於テモ亦之ヲ至當ナリトセサルヘカラス

以上記述シタル三條件ヲ具備シタル占有ヲ二十年間斷斷ナク繼續スルトキハ占有ノ目的物カ不動産ナルト動産ナルトヲ問ハス又占有者ノ意思カ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス取得時効ハ完成スルモノナリ

二 所有權以外ノ財產權ノ取得時効

所有權以外ノ財產權ニ付テハ第六十三條ハ通則トシテ二十年間左ノ條件ヲ具備シテ之ヲ行使スルトキハ其權利ヲ取得スヘキモノト爲シタル

(イ) 行使ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テセラルルコト

(ロ) 行使ハ平穩ナルコト

(ハ) 行使ハ公然ナルコト

右ノ條件ヲ必要トスル理由ハ所有權ヲ取得スヘキ占有ニ付テ之ヲ必要トスル理由ト同一ナルヲ以テ之カ説明ヲ省略ス

第二 例外

一 所有權ノ取得時効

通則ニ揭ケタル條件ヲ具備シ他人ノ不動産ヲ占有スル者カ占有ノ始メ善意ニシテ且過失ナカリシトキハ取得時効ノ期間ハ短縮セラレ十年ヲ以テ完成スルモノトス(第一六二條第二項)即チ短期時効ハ通則トシテ要スル條件ノ外尙ホ左ノ條件ヲ要スルモノナリ

(イ) 占有者カ善意ナリシコトヲ要ス 善意トハ占有者カ自ラ正當ニ所有權ヲ取得シタリト信スルヲ謂フ故ニ占有者カ物ノ占有ヲ爲スニ當リ眞ノ所有者ヨリ其物ノ所有權ヲ取得シタルニ非サルコトヲ知ルトキハ之ヲ以テ善意者ト爲スコト能ハス但法律ハ占有ノ始メ善意ナリシコトヲ要件トシタルヲ以テ占有者カ物ノ占有ヲ爲シタル後其取得シタリト信シタル所有權ハ正當ニ之ヲ取得シタルニ非タルコトヲ知ルニ至ルモ之カ爲メ短期時効ノ利益ヲ失フモノニ非ス

惡意ノ占有者ノ相續人カ被相續人ノ占有カ正當ノ所有權ニ基クモノニ非ナル

コトヲ知ラサル場合又ハ善意ノ占有者ノ相續人カ被相續人ノ占有ヲ正當ノ所有權ニ基クモノニ非サルコトヲ知リタル場合ニ於テハ取得時効ハ通則ニ從フヘキモノナルヲ將タ例外ニ從フヘキモノナルヲ相續人カ被相續人ノ權利ヲ其儘ニ承繼スルモノニシテ被相續人ノ權利以上ノ權利ヲ有スルコト能ハサルト同時ニ亦被相續人ノ權利以下ノ權利ヲ有スルニ至ルヘキモノニ非サルカ故ニ取得時効進行中ニ相續開始シタル場合ト雖モ時効ノ期間ハ一ニ占有ノ始ニ於ケル被相續人ノ意思如何ニ因リテ定マルモノニシテ相續人ノ意思如何ハ何等ノ影響ヲ與フルモノニ非サルナリ

(ロ) 占有者カ過失ナカリシコトヲ要ス 過失ナシトハ占有者カ占有ヲ爲スニ當リテ爲スヘキ相當ノ注意ヲ爲シタルヲ謂フ故ニ占有者ハ善意ナルモ相當ノ注意ヲ爲サザリシノ結果所有者ニ非サル者ヨリ權利ノ移轉ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ短期時効ノ利益ヲ主張スルコト能ハス舊民法及ヒ佛伊等ノ民法ニ於テハ無過失ナル條件ノ代リニ正權原アルコトヲ以テ短期時効ノ條件ト爲シタリ正權原トハ所有權ヲ取得スヘキ法律上ノ原因ニシテ買賣交換贈與遺贈

等ノ如キヲ謂フ此等ノ立法例カ有權原ナル條件ヲ必要トシタルハ占有者カ正當ニ所有權ヲ取得シタリト信シタリト言フモ人ノ意思ハ外部ヨリ容易ニ之ヲ窺知スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ權原ノ有無ニ依リテ所有權ヲ取得シタリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタルヤ否ヤヲ見ントシタルモノナルヘシ然レトモ權原ヲ必要トシタル結果占有者カ善意ニシテ而モ所有權ヲ取得シタリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スル場合例ヘハ代理人ヲシテ所有權ヲ取得ヲ爲サシメタルニ代理人カ所有者ニ非サル者ヨリ之ヲ取得シナカラ所有者ヨリ所有權ヲ取得シ來リタリト報告シタル場合ノ如キニ於テモ尙ホ占有者ハ短期時効ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス此ノ如キハ正當ノ理由ニ因リ自ラ所有權ヲ取得シタリト信シタル占有者ニ對シテ取得時効ヲ短縮セントシタル趣旨ニ適セサルモノナリ故ニ新民法ハ正權原アルコトヲ以テ條件ト爲サス代アルニ過失ナカリシコトヲ以テシ苟モ相當ノ注意ヲ爲シタル以上ハ權原ノ有無ニ拘ハラズ占有者ヲシテ短期時効ノ利益ヲ享受セシムルコトト爲シタリ

右ノ二條件ヲ具備スルトキハ占有者ハ短期時効ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ル

モノナリ但短期時効ノ利益ヲ主張スルヲ得ルハ不動産ノ占有者ニ限ルモノニシテ動産ノ占有者ハ與カラス法律ハ動産不動産ヲ區別セシテ取得時効ノ通則ヲ定メナカラ其例外ヲ設クルニ當リテハ獨リ不動産ニ付テノミ規定シタルハ一見頗ル奇異ノ感アリト雖モ是レ動産ニ付テハ第九十二條カ「平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得スルモノト爲シ占有ト同時ニ所有權發生シ其間時効ナル問題ヲ生スルコトナキヲ以テ例外ヲ設クルニ必要ナキニ由ルモノナリ

二 所有權以外ノ財産權ノ取得時効

所有權以外ノ財産權ニ付テハ之ヲ行使スル者カ通則ニ掲ケタル條件ノ外向ホ行使ノ始メ善意ナリシコト並ニ過失ナカリシコトノ二條件ヲ具備スルトキハ其取得時効十年ニ短縮セラレルモノニシテ其理由ハ所有權ニ付テ述ヘタル所ト異ナルコトナシ(第一六三條)故ニ茲ニ再ヒ之ヲ重言セズ

第三節 消滅時効

第一款 消滅時効ノ起算點

消滅時効ハ常ニ權利ノ不行使ニ因リテ生スルモノナリ

凡ソ消滅時効ナルモノハ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキ狀態ニ在ル者カ之ヲ行使スルコトヲ怠ルニ因リテ生スルモノナルヲ以テ時効進行ノ起算點ハ權利者カ其權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ニ在ラサルヘカラス隨テ權利者カ未タ其權利ヲ行使スルコトヲ得サル間ハ時効ハ其進行ヲ開始スルモノニ非ス(第一六六條)第一項單純ノ權利又ハ終期附若クハ解除條件附權利ハ權利カ發生スルト同時ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ此ノ如キ權利ハ發生ト共ニ消滅時効其進行ヲ開始スルモノナリト雖モ始期附若クハ停止條件附權利ハ期限到來シ又ハ條件成就スルマデハ之ヲ行使スルコト能ハサルモノナリカ故ニ此ノ如キ權利ハ期限到來シ又ハ條件成就スルマデ時効ハ其進行ヲ爲ササルモノナリ舊民法及ヒ佛伊等ノ民法ニ於テハ權利ヲ行使スルコトヲ得ルマデ時効ノ進行ヲ爲サシメサル場合ヲ以テ其間時効ノ停止セルモノト爲シタリト雖モ時効

ノ停止トハ時効ノ中断ヲ爲スコト能ハサル者ニ對シテ其進行ヲ停止スルモノナリ之ニ反シテ始期附若クハ停止條件附權利ヲ有スル者ハ時効ノ中断ヲ爲スコト能ハサルニ非ス(時効ヲ中断スルコトハ保存行為ナルヲ以テ始期附若クハ停止條件附權利者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ)唯本來ノ權利ヲ行使スルコトヲ得サル者カ權利ノ行使ヲ爲ササルモ之ヲ以テ權利行使ヲ怠ルモノト謂フコト能ハサルカ故ニ之ニ對シテハ時効ヲ進行セシメサルヲ故ニ新民法ハ此場合ヲ以テ時効ノ停止ニ關スルモノトセスシテ時効ノ起算點ニ關スルモノト爲シタルハ其當ヲ得タルモノト爲ササルヘカラス(舊民法第一六六消滅時効ハ權利不行使ナル理由ニ基キテ發生スルモノナリト雖モ取得時効ハ別ニ其理由ヲ有シ物ノ占有又ハ權利ノ行使ナルコトカ其原因ト爲ルモノトス故ニ始期附若クハ停止條件附權利ノ目的物カ第三者ノ爲メニ占有セタル場合ニ於テ始期附若クハ停止條件附權利ノ消滅時効ハ第六十六條第一項ノ規定ニ依リ期限到來又ハ條件成就ノ時マテ其進行ヲ爲ササルモ占有權ノ效力タル取得時効ハ第三者カ占有ヲ始メタル時ヨリ其進行ヲ開始スルモノナリ而シ

テ是レ消滅時効ト取得時効トハ各別箇ノ發生原因ヲ有スルノ結果ニシテ已ムヲ得サルモノナリ(第一六六條第二項本文)此ノ如ク消滅時効ト取得時効トハ兩兩相獨立シテ進行スルモノナルカ故ニ場合ニ依リテハ消滅時効進行中ニ於テ既ニ取得時効ノ完成スルコトアルヘク甚シキハ未タ消滅時効ノ進行開始セサルニ早ク既ニ取得時効ノ成就スルコトナキヲ保スヘカラス故ニ一見始期附若クハ停止條件附權利者ハ頗ル不利益ナル地位ニ在ルモノノ如シ然レトモ始期附又ハ停止條件附權利者ハ其本來ノ權利ヲ行フヲ得サルモ之カ保存ヲ爲スコトハ之ヲ妨ケサルモノナルヲ以テ占有者ニ對シテ取得時効ノ中断ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ實際ニ於テハ甚シキ不都合アルモノニハ非サルナリ第六十六條第二項但書ハ特ニ權利者ハ時効ヲ中断スル爲メ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得ヘキコトヲ規定シタルヲ以テ反對論法ニ依リ其他ノ中断原因ハ之ヲ許ササルカ如シト雖モ立法者カ該但書ヲ設ケタルハ恐ラクハ權利者ヲシテ自ラ進テ占有者ニ對シ承認ヲ求ムルコトヲ得セシメントスルニ在ルノミニシテ之ニ依リテ他ノ中断原因ヲ認メサルノ趣旨ニハ

非ナルヘシ

第二款 消滅時效ノ期間

第一 通則

所有權ハ他人カ取得時効ニ因リ之ヲ取得スルコトニ因リ消滅スルノ外時効ニ罹リテ消滅スルコトナシ其他ノ財產權ハ原則トシテ二十年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅スルモノナリ(第一六七條第二項)時効ノ期間ハ權利ノ性質交通機關發達ノ程度社會經濟ノ狀態等種種ノ關係ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノニシテ舊民法及ヒ德伊獨等ノ民法ニ於テハ普通ハ消滅時効ノ期間ヲ三十年トセリ新民法カ之ヲ二十年ト定メタルハ我邦ノ社會狀態ニ於テハ三十年ハ長キニ失スト爲シタルモノナルヘシ(第一七九條)二十年時効ハ通則ナルヲ以テ法律ニ於テ特ニ例外ヲ設タルコトナケレハ財產權ハ常ニ二十年間之ヲ行ハサルコトニ因リテ消滅スルモノナリ然レトモ此通則ハ多クノ例外ヲ有スルヲ以テ實際ニ於テハ通則ノ適用セラルル場合ハ甚タハ二

多カラサルヘシ

第二 例外

一 債權ノ時効

債權ハ普通十年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(第一六七條第一項)立法當時衆議院ニ於ケル言論ニ徴スレハ債權ニ付キ特ニ二十年時効ヲ定メタル理由ハ從來我邦ノ出訴期限ハ五年ナリシヲ以テ一朝之ヲ二十年トスルハ急遽ノ變動ニ過クト云フニ在リタルモノノ如シ故ニ債權ニ付キ特ニ短期時効ヲ定メタルハ此ノ如ク爲ササルヘカラサル理論上ノ理由アリタルニ非スシテ唯從來ノ行懸ヲ斟酌シタル沿革上ノ理由ニ因リタルニ過キサルカ如シ(第一七九條)債權中特種ノ債權ニ付テハ後ニ述フヘキカ如ク特種ノ消滅時効存スルカ故ニ十年時効ハ此ノ如キ特種ノ時効ナキ場合ニ於テ適用セラルヘキモノナリ故ニ債權ノミニ付テ言ヘハ十年時効ハ其原則ヲ爲スモノナリ(第一八〇條)定期金ノ債權ノ時効ハ二十年時効ハ其原則ヲ爲スモノナリ(第一八二條)定期金ノ債權ハ其行使ヲ爲スコトヲ得ル時即チ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間

之ヲ行ハサルトキハ消滅時效ニ罹ルモノナリ但第一回ノ辨濟期ヨリ計算シテ二十年ヲ經過セサルモ最後ノ辨濟期ヨリ計算シテ十年ヲ經過スル間之ヲ行ハサルトキハ亦時效ニ因リテ消滅スルモノトス第一六八條債權カ一時ニ辨濟セラルヘキモノニ非サルカ爲メニ特ニ其時效ヲ長クスヘキノ理由ハ予ノ發見スルコト能ハサル所ナリト雖モ法律ハ定期金債權ニ付テハ特ニ通則ニ從ヒ第一回辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルコトニ因リ消滅スルモノト爲シタリ但之カ爲メニ普通ノ債權ト苦シキ不權衡ヲ生セシメサルカ爲メ最後ノ辨濟期ヨリ十年ヲ經過スル間債權ヲ行使セサルトキハ時效ニ因リテ消滅スルモノト爲シタリ

第六十八條第一項ハ定期金債權ノ時效ヲ定メタルモノナルヲ以テ同項ニ依リ時效成就シタルトキハ定期金債權其モノカ消滅スルモノニシテ獨リ其期ニ於テ辨濟セラルヘキ金額ニ對スル債權ノミ消滅スルモノニ非ス

債務者カ定期金ヲ各期ニ辨濟スルハ其債權アルコトヲ承認スルモノナルカ故ニ時效ハ之ニ因リテ中断セラルルモノナリ然レトモ各期ニ辨濟アリタルコト

ノ證據ハ債權者之ヲ有セサルヲ常トスルヲ以テ定期金ノ債權ニ付テハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年ヲ經過スルトキハ狡猾ナル債務者ハ債權者ニ證據ナキニ乘シ時效ノ對抗タルコトナシトセス故ニ法律カ債權者ヲ保護スルカ爲メ之ヲシテ何時ト雖モ債務者ノ承認書ヲ求メ以テ時效中断ノ證ヲ有スルコトヲ得セシムルコトト爲シタリ(第一六八條第二項)

三年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ノ時效

年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ノ消滅時效ハ五年ナリ(第一六九條年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權トハ利息、地代、小作料、給料等ノ如キモノニシテ一年、半年、一箇月等ノ時期ヲ以テ定メタルモノヲ謂フ此ノ如キ債權ニ因ル收入ハ普通日常生活ノ支辨ニ當テラルルモノナルヲ以テ權利者ハ多クハ之カ請求ヲ緩漫ニ付スルモノニ非ス故ニ其時效モ亦普通ノ債權ニ比スレハ之ヲ短クシテ可ナルモノナリ

四 醫師、技師等、人如キ者カ其技術ニ因リ取得シタル債權ノ時效

左ニ掲ケタル債權ハ普通ノ債權ニ比スレハ常ニ速ニ請求セラレ且速ニ辨濟セラルヘキモノナルヲ以テ三年間之ヲ行ハサルトキハ消滅時效ニ罹ルモノトス
(第一七〇條)

(イ) 醫師產婆及ヒ藥劑師ハ治術及ヒ調劑ニ關スル債權
(ロ) 技師棟梁及ヒ受負人ノ工事ニ關スル債權

其負擔シタル工事終了ノ時ニ於テ辨濟スヘキモノト爲スコト多シ故ニ其消滅時效ハ其時ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス(第一七〇條第二號)但書是レ當然ナリ何トナレハ此ノ如キ債權ハ其時ニ於テ始メテ之ヲ行使スルモトヲ得ルヲ以テナリ但予ハ第七十條第二號但書ハ之ヲ削除スルコトヲ希望セルモノナリ何トナレハ此ノ如キ規定アルトキハ事實全工事ノ終了シタル時ニ於テ始メテ辨濟セラルヘキ契約アルトキト雖モ尙ホ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ時效ヲ起算スヘキカ如キ疑ヲ生スルノ因ト爲ルヘキヲ以テナリ

五 辯護士等ニ對シ職務ニ關シ交付シ置キタル書類ノ返還ヲ求ムル債權ノ時效

辯護士公證人又ハ執達吏ハ其職務上依頼人ヨリ種種ノ書類ヲ受取ルコトアルモノナリ然ルニ若シ此等ノ者ハ二十年若クハ十年間其職務上受ケタル書類ヲ返還スルノ義務ヲ免レストセハ書類ノ保存並ニ之カ返還ヲ爲シタルノ證據ノ保存ノ爲メ殆ト其煩ニ堪ヘサルヘシ故ニ法律ハ特ニ短期ノ時效ヲ設ケ辯護士ノ受取リタル書類ニ付テハ事件カ終局ヲ告ケタル時ヨリ三年、公證人又ハ執達吏ノ受取リタル書類ニ付テハ職務ヲ執行シ了リタル時ヨリ三年ヲ經過スルトキハ其費ヲ免ルヘキモノト爲シタリ(第一七一條)

六 辯護士等カ其職務上取得シタル債權ノ時效

辯護士公證人又ハ執達吏カ其職務上取得シタル債權モ亦速ニ行使セラルヘキ性質ノモノナルヲ以テ其原因タル事件終了シタル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ罹リテ消滅スルモノトス但辯護士ノ執行スル職務ノ如キハ時トシテ數年ニ涉リテ結了セサルコトアルモノナルヲ以テ常ニ事件終了ノ時ヨリ

時効進行スヘキモノトセハ時効ハ比較的長期ニ至ルコトアルヲ免レス故ニ事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ事件終了後未ダ二年ヲ經過セサルモ其事項ニ關スル債權ニ限り時効ニ因リ消滅スルモノトス(第一七二條)

七 商人ノ商品代價等ノ債權ノ時効消滅ニ關スルハ左ニ掲クル債權ハ常ニ速ニ請求セラレ且速ニ辨済セラルヘキモノナルヲ以テ二年ニシテ消滅時効ニ罹ルモノナリ(第一七三條)

(イ) 生産者卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

(ロ) 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

(ハ) 生徒及ヒ習業者ノ教育衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主塾主教師及ヒ師匠ノ債權

八 雇人ノ給料等ノ債權ノ時効消滅ニ關スルハ左ニ掲クル債權ハ最モ速ニ辨済セラルヘキ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ時効モ亦一年ニシテ完成スルモノナリ(第一七四條)

(イ) 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料

(ロ) 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

(二) 運送費

(二) 旅店料理店貸席及ヒ娯遊場ノ宿泊料飲食料席料木戸錢消費物代價並ニ

立替金

(ホ) 動産ノ損料

九 右ノ外法律ニ於テ特ニ定メタル時効

民法商法又ハ他ノ法律ニ於テ普通ノ時効ヲ適用スルヲ以テ適切ナラスト爲シ特ニ時効ノ期間ヲ定メタルモノ少カラス此ノ如キ場合ニ於テハ權利ハ其規定シタル時効ニ因リ消滅スルモノトス

民法總則(自第四章終至第六章)

民法總則 (自第四卷起)

民法總則 (自第四卷起)

三三三

民法總則 (自第四卷起)

民法總則

民法總則 (自第四卷起)

民法總則 (自第四卷起)

(三十五年度講義錄)

法學士若槻禮次郎講述

民法總則 自第四章至第六章

和佛法律學校發行

民法總則

自第四章至第六章

民法總則(自第四章至第六章)目次

三十五平島編輯部

民法總則(自第四章至第六章)目次

第四章 法律行為

第一節 總則

第二節 意思表示

第一款 意思ト表示ト一致セサル場合

第二款 意思表示ニ瑕疵アル場合

第三款 隔地者ニ對シテ意思ヲ表示スル場合

第四款 未成年者又ハ禁治產者ニ對シテ意思ヲ表示スル場合

ル場合

第三節 代理

第一款 代理ノ定義

第二款 代理ノ種類

第三款 代理ノ有效條件

第四款	代理人ノ權限	一八五
第五款	復代理	一九一
第六款	代理權ノ消滅	二〇三
第七款	代理權限ナキ者カ代理人トシテ爲シタル法律行爲	二〇八
第四節	無效及ヒ取消	二一九
第一款	無效ノ行爲	二一九
第二款	取消シ得ヘキ行爲	二二一
第五節	條件及ヒ期限	二四〇
第一款	條件	二四一
第二款	期限	二七一
第五章	期間	二八一
第六章	時效	二八七
第一節	總則	二八七

第一款	時效ノ性質	二八七
第二款	時效ノ效力	二九一
第三款	時效ノ拋棄	二九五
第四款	時效ノ中斷	二九七
第五款	時效ノ停止	三一四
第二節	取得時效	三二五
第三節	消滅時效	三三一
第一款	消滅時效ノ起算點	三三三
第二款	時效ノ期間	三三六

民法總則(自第四章)目次終

目次

第一章 總論	一
第二章 貨幣	二
第三章 銀行	三
第四章 保險	四
第五章 證券	五
第六章 匯兌	六
第七章 儲蓄	七
第八章 信託	八
第九章 銀行之組織	九
第十章 銀行之業務	十
第十一章 銀行之監督	十一
第十二章 銀行之發展	十二
第十三章 銀行之未來	十三
第十四章 銀行之國際化	十四
第十五章 銀行之社會責任	十五
第十六章 銀行之倫理	十六
第十七章 銀行之法律	十七
第十八章 銀行之經濟	十八
第十九章 銀行之政治	十九
第二十章 銀行之文化	二十
第二十一章 銀行之藝術	二十一
第二十二章 銀行之科學	二十二
第二十三章 銀行之哲學	二十三
第二十四章 銀行之宗教	二十四
第二十五章 銀行之道德	二十五
第二十六章 銀行之法律	二十六
第二十七章 銀行之經濟	二十七
第二十八章 銀行之政治	二十八
第二十九章 銀行之文化	二十九
第三十章 銀行之藝術	三十
第三十一章 銀行之科學	三十一
第三十二章 銀行之哲學	三十二
第三十三章 銀行之宗教	三十三
第三十四章 銀行之道德	三十四
第三十五章 銀行之法律	三十五
第三十六章 銀行之經濟	三十六
第三十七章 銀行之政治	三十七
第三十八章 銀行之文化	三十八
第三十九章 銀行之藝術	三十九
第四十章 銀行之科學	四十
第四十一章 銀行之哲學	四十一
第四十二章 銀行之宗教	四十二
第四十三章 銀行之道德	四十三
第四十四章 銀行之法律	四十四
第四十五章 銀行之經濟	四十五
第四十六章 銀行之政治	四十六
第四十七章 銀行之文化	四十七
第四十八章 銀行之藝術	四十八
第四十九章 銀行之科學	四十九
第五十章 銀行之哲學	五十

ノ爲メニ器械ノ作用ニ依リテ供給ナル空氣ノ如キハ勞力ト資本トヲ要セ
且法令上之カ呼吸ヲ禁止スルカ如キコトナキカ故ニ交換價直ヲ有スルモノ
右ノ如ク價直ニハ利用價直ト交換價直トノ二大區別アレトモ前既ニ述ヘタル
カ如ク交換價直存在條件ノ一ハ利用價直ニシテ利用價直アリテ而シテ後始メ
テ交換價直ノ生スルモノナレハ財貨ノ價直ハ到底同一ノ主觀的認識力ニ因ル
モノナリ畢竟二者ハ一ノ價直ノ兩面タルニ過キス(四)

(四) 財貨ニシテ利用價直ノミアリテ交換價直ナキモノアリ然レトモ交換
價直アルモノニハ利用價直ノ備ハラサルコト決シテ之アルコトナレ然リ而
シテ此後ノ場合ト雖モ利用價直ニ交換價直カ附加サレタルニ非スシテ兩者
ハ唯一ノ價直ニ付キ觀察ノ方面異ナルヨリ生スルモノタルニ過キス例ハハ
茲ニ一箇ノ湯呑ヲ取り前面ヨリ之ヲ見ルトキハ凹形ヲ爲スモ後面ヨリ之ヲ
見レハ凸形ヲ爲スカ如ク二種ノ價直モ亦之ト同一ノ關係ヲ有スルモノニシ
テ利用ノ點ヨリ觀ルト交換ノ點ヨリ觀ルトノ差異アルノミ而シテ此二種ノ

價直ハ孰レモ同一ノ主觀的認識力ニ因リテ生スルモノナリ然ルニ舊派ノ經濟學者中價直ノ種類ヲ分ツニ當リ利用價直交換價直ノ二者ヲ全ク別異ノモノト爲セル者アルハ未タ研究ノ足ラサルニ因ルモノナリ又對面價直此ノ如ク交換價直ノ基礎ハ常ニ利用價直ニシテ利用價直ハ之ヲ有スル財貨ト他ノ財貨トノ比較ニ依リテ確定スルモノナリ而シテ財貨ニ對スル需要ヲ適額ナルト否トハ其他物ト交換スヘキヤ否ヤヲ決スルノ根底ト爲ルヘケレ其交換スヘキヤ否ヤニ依リテ利用價直ノ大小如何モ亦確定スルニ至ルヘシ是由リテ之ヲ觀レハ利用價直ハ交換價直ニ依リテ確定セラレ交換價直ハ之ヲ有スル財貨ノ利用如何ニ因リテ生スルモノニシテ兩者ノ關係ハ實ニ車ノ兩輪焉ノ雙翼ノ如ク相待チテ始メテ成立スルモノト謂フヘシ勿論利用價直ハ交換價直ヲ待チテ始メテ生スルモノニ非スト雖モ交換價直ノ助力ニ據リテ是カ量定ヲ爲スニ非サレハ漠然捕捉スヘカラサルモノトシテ止マン(二五)

⑤ 何人モ無用ナリトスル物ハ之ヲ他物ト交換セント欲スルモ得ヘカラス故ニ人カ或財貨ニ對シ需要ヲ有シ其需要ノ適切ナルヤ否ヤノ差異ハ其物

カ他物ト交換サルルコトヲ得ルヤ否ヤヲ決スルノ根底ト爲ルモノナリ之ト同時ニ其交換シ得ル物ナルヤ否ヤハ其物ノ利用ノ大小ニ關係ヲ有スルモノニシテ交換力アル財貨ハ利用價直モ隨テ大ナルモノナリ故ニ利用價直モ亦交換價直ノ力ニ依リテ確定スルモノニシテ兩者ノ關係ハ相待チテ始メテ全キモノナリ詳言スレハ利用價直ハ交換價直ニ依リテ始メテ生スルモノナリト謂フヲ得サレトモ交換價直ノ助ヲ藉ルニ非サレハ利用價直ノ程度ヲ量定スルコトヲ得サルモノトス例ヘハ太平洋ニ在ル殆ト際限ナキ水量ハ多少ノ利用ヲ人ニ與フルコトハ何人モ認ムル所ナルモ此水量果シテ幾何ノ價直ヲ有スルヤヲ知ランニハ之ヲ他ノ水ト比較シ一ハ鹽ヲ製スルヲ得ルモ飲料ニ適當ナラス一ハ飲料ニ適スルモ鹽ヲ製スルニ適セサル等ノ點ヨリシテ兩者ヲ比較シテ而シテ後始メテ太平洋ノ水ノ利用價直ヲ量定スルコトヲ得ルモノナリ

此ノ如ク價直ニ利用價直ト交換價直トノ二種アリト雖モ此區別ハ畢竟同一價直ヲ二箇ノ方面ヨリ觀タルニ過キササルナリ尙ホ進ミテ二種ノ區別ヲ問ハス等

シテ主觀的ノ認識ニ因レルモノタル價值ヲ左右スルニハ如何ナルモノノ斟酌ヲ要スルヤト云フニ通常下ノ二者ヲ參照ス一ハ財貨固有ノ利用即チ價值ヲ認メラルモノノ有スル自然ノ利用ニシテ一ハ財貨ニ對スル欲望即チ是ナリ
(二) 此二要件中第二ノ欲望ハ其適切ナルト否トニ依リテ固ヨリ同一ナラサル
(三) 價值ハ其利用價值タルト交換價值タルトニ拘ハラス總テ人ノ認識力ニ因リテ生スルモノナレトモ其認識力ニ因リテ價值ノ高低定マルニハ二箇ノ斟酌サルヘキモノアリ一ハ價值ヲ認メラルモノノ自然ノ利用即チ天然自然ニ利用ヲ與ヘ得ルノ性質ナリ凡ソ價值ハ人カ認ムルニ因リ生スルモノナレトモ全ク何等ノ用ニモ立たサルモノニ對シテハ人カ價值ヲ認ムルコトナキヲ以テ尙モ價值ヲ認メラルルニハ其物自身カ利用ヲ與ヘ得ルノ性質ヲ備フルモノタラサルヘカラス尙ホ他ノ一ハ價值ヲ認メラルヘキモノニ對シハカ之ヲ得ントスル欲望存在セサルヘカラス例ヘハ煙草ノ如キハ二三十年以前ニ何人モ之ヲ用フルモノナカリシカ故ニ當時ニ在リテハ雜草ト同一視セラレタルモノナレトモ爾後煙草ハ人ノ欲望ヲ滿タスモノト爲リ始メテ價值

ヲ生スルニ至レルカ如キ即チ是ナリ
結果ヲ生シ需要供給ノ關係ニ依リテ定マリ需要ハ又社會上經濟上種種ノ事情ニ依リテ定マルモノナリ以上ノ二者先ツ第一ニ斟酌セラレサルヘカラスアルモ其他ニ尙ホ必要ナルハ種種ノ價值ノ比較ナルヲ得ルコト即チ是ナリ是レ特ニ交換シ得ヘキ財貨ニ於テ必要ナルノミナラス同時ニ又交換シ得ヘカラスアル財貨ニ於テモ出來得ヘキコトナリトス(七)

(七) 人ノ物ニ對スル欲望ハ其物ノ異ナルニ從ヒ又人ニ依リ強弱アリ而シテ價值ノ高低ハ此欲望ノ強弱ニ依リテ支配サルモノナリ換言スレハ價值ノ高低ハ之ヲ有スル物ノ需要供給ノ關係ニ依リテ定マルモノナリ即チ供給多クシテ需要少キモノハ價值低ク供給少クシテ需要多キモノハ其價值高シ是レ價值ノ高低ニ關スル經濟學上ノ原則ナリトス而シテ需要ノ多少ハ外國ニ對スル產業上ノ競爭又ハ外交上ノ關係其他種種様々ノ事情ニ依リテ定マルモノニシテ決シテ單純ノ原因ニ依リテ定マルモノニ非サルナリ
從來英米佛等ノ經濟學者ニシテ廣義ノ價值ト價格トヲ同一視シタル者頗ル多

ケレハ世人カ價值ノ一種タル交換價直ト價格トヲ混同スルハ敢テ深ク咎ムルニ足ラス(八)抑モ交換價直ノ價格ニ於ケル關係ハ財貨ノ交換ナレ得ヘキ可能(九)從來英米佛ノ經濟學者ノ多數ハ價值直其モノト價格トヲ同一視シ價值ハ即チ價格ナリト爲シ特ニ利用價直ナルモノヲ認メナリシ故ニ世人カ交換價直ト價格トヲ混同スルハ敢テ極ムニ足ラサルナリ(十)此等諸論者ノ意見カ現ニ交換ナル事實ニ於ケルカ如シ(九)價格ハ一種ノ財貨カ實際他ノ財(九)交換價直トハ交換ナレ得ヘキ性質ヲ謂ヒ價格トハ交換ノ事實アリテ始メテ起ルモノナリ故ニ交換ノ可能性ヲ有スル財貨カ實際交換ナルルトキハ茲ニ始メテ價格ナルモノ生スルナリ

貨ト交換サルルニ因リテ始メテ成立スルモノナルカ故ニ甲ノ價格ハ其現在交換サルル乙ノ分量ニシテ乙ノ方ヨリ言ヘハ甲ノ價格ハ其現在交換サルル甲ノ分量ナリ例ヘハ米一升ト茶一斤ト交換サルルトキハ米一升ノ價格ハ茶一斤ニシテ茶一斤ノ價格ハ米一升ナリ然ラハ則チ價格ナルモノハ決シテ單獨ニ存在スルモノニ非ス他ニ比例シ他ニ關係シテ起ラサルヘカラス而シテ其起ルヤ自

由交通ノ經濟社會ニ在リテハ財貨ヲ相互ニ交換スル人人ノ合意ニ因ルモノトス財貨ニシテ通常交換ナレ自由交通ノ經濟社會ニ最モ多ク存在スルモノヲ稱シテ之ヲ貨物ト謂フ貨物ト常ニ交換ナレ交換ヲ其職分トスルモノヲ稱シテ之ヲ交換ノ媒介ト名ク今日ノ社會ニ於テハ貨幣即チ是ニシテ實ハ貨物ノ一種ナリ(十)

(十一)價格ハ財貨ヲ交換スル人人相互ノ合意ニ因リテ定マルモノトス而シテ通常世人ノ間ニ交換ナル財貨ハ即チ貨物ナリ無形ノ財貨モ亦交換ナルルコトナキニシモ非サルモ是レ特別ノ場合ニ屬ス而シテ直接ニ欲望ヲ滿タスヲ職分トモスシテ交換ヲ職分ト爲スモノヲ交換ノ媒介ト稱ス貨幣即チ是ナリ貨幣モ亦一種ノ貨物ナレトモ他ノ貨物ト異ナル所ハ交換ノ常職トスルニ在リ(十二)此等諸論者ノ意見カ現ニ交換ナル事實ニ於ケルカ如シ(九)價格ハ一種ノ財貨カ實際他ノ財(九)交換價直トハ交換ナレ得ヘキ性質ヲ謂ヒ價格トハ交換ノ事實アリテ始メテ起ルモノナリ故ニ交換ノ可能性ヲ有スル財貨カ實際交換ナルルトキハ茲ニ始メテ價格ナルモノ生スルナリ

ルルコトアリ此ノ如ク一ノ財貨カ貨幣ノ媒介ニ使ラヌシテ直接ニ他ノ財貨ト交換サルル場合ニ於テハ其財貨ハ交換サルル毎ニ價格ノ種類ヲ増スモノトス例ヘハ米一升カ麥一升五合ト交換サルルトキハ米一升ノ價格ハ麥一升五合ナリ而シテ此一升ノ米カ更ニ茶一斤ト交換サルルトキハ此米ニハ二種ノ價格ヲ生シタル譯合ナリ即チ麥ニ對シテハ一升五合茶ニ對シテハ一斤ノ價格アルナリ故ニ交換サルル財貨ハ相互ニ交換ノ媒介タルモノナリ然レトモ價格其モノト價格ノ高低トハ自ラ別物ナレハ此二者ヲ混同スヘカラス箇ノ財貨ノミニテハ存在セスシテ數箇ノ財貨ノ比較ニ因リテ始メテ成立スルモノナルカ故ニ一財貨ノ價格カ騰貴セリト謂フハ其交換上他ノ財貨ヲ得ル比例ノ増加シタルコトニシテ一財貨ノ價格カ下落セリトハ交換上他ノ財貨ヲ得ル比例ノ減少シタルコトナリ故ニ一財貨ノ價格カ他ノ種類ノ財貨ニ對シテ全體同時ニ下落スルハ其他ノ財貨ト交換シ得ル比例ノ減少シタルニ外ナラスCIII) 一財貨ノ價格ノ騰貴トハ其他ノ財貨ト交換サルルニ當リ從來ヨリモ多クノ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂ヒ其下落トハ他ノ財貨ト交換サルル

ニ當リ從來ヨリモ少キ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂フモノトス

然レトモ總テノ財貨カ同時ニ互ニ相騰貴シ又ハ互ニ相下落スルコトハ決シテ出來得ヘカラサルコトナリ何トナレハ價格ハ素ト二種又ハ二種以上ノ財貨ノ交換比例ナレハ一方ノ騰貴スルハ一方ノ下落スルコトニシテ雙方共ニ騰貴シ若クハ共ニ下落スルコトハ決シテ出來得ヘカラサルコトナレハナリCIII) 然ル

CIII) 財貨ノ價格ハ二種以上ノ財貨カ互ニ相交換サルル比例ナルヲ以テ一方ノ騰貴ハ即チ一方ノ下落ヲ示スモノニシテ雙方共ニ騰貴シ又ハ共ニ下落スルコトハ理ニ於テ決シテ有リ得ヘカラサルコトナリ之ヲ例ヘハ恰モ井ノ釣瓶ノ如シ即チ二箇ノ釣瓶ノ中一方カ下レハ必ス一方ハ上リ之ニ反シ一方カ上レハ一方ハ必ス下リ二箇共ニ同時ニ上リ又ハ下ルコトハ決シテナキナリニ世間往々物價騰貴ノ聲ヲ聽キ之ヲ以テ總テノ財貨カ同時ニ騰貴シタルモノナルカ如ク思惟スル者アルモ本來ハ決シテ然ルニ非ス斯ル思想ノ由リテ來ル所以ヲ尋スルニ畢竟今日ノ經濟社會ニ於テハ米一升ノ價格ハ茶一斤ナリ茶一

斤ノ價格ハ半紙五帖ナリナドト曰フモ、タ金十五錢ナリトカ或ハ金二十錢ナリトカ曰ヒ貨幣ヲ以テ交換比例ノ標準ト爲スヲ以テ總テノ物ノ價格カ騰貴タルカ如ク見ユルハ其貨幣ニ對スル交換比例ノ上リタルコトニシテ貨幣以外ノ物ノ騰貴シタルニ過キスシテ是レ取リモ直テス貨幣ノ下落ナリ方今社會一般ノ有様ヲ觀ルニ獨リ貨幣賣買ノ方法ニ既ニ久シク世ニ行ハル居ルヲ以テ物價ノ騰貴トハ貨幣ノ下落ナル中トヲ知ラサルモノ多キニ過キス(四)

(四) 世間往往物價騰貴ヲ以テ總テノ物ノ價格ノ騰貴ト解スル者アルモ是レ未タ其真相ヲ知ラサルモノナリ物價騰貴トハ總テノ物ノ騰貴シタルニ非スシテ貨幣ノ價格カ貨幣以外ノ總テノ財貨ニ對シテ下落シタルニ過キサルモノトス(五) 貨幣ハ其價格ヲ稱シテ物價又ハ市價ト謂フ故ニ市價ハ種種ノ財貨ト貨幣トノ交換比例ニシテ價格ノ一種ト看做ササルヘカラス而シテ之ヲ貨幣カ種種ノ財貨ニ於ケル關係ノ點ヨリ觀察スルトキハ貨幣ト交換サルル種種ノ財貨ハ貨幣ノ市價ニ非スシテ其價格ナリ(五)

(五) 貨幣ニテ言ヒ表ハス價格ハ即チ物價又ハ市價ナリ此市價ナル語ハ世上ニ於テ時刻刻變動極リナキ價即チ時價ト同一ニ用ヒラルコトアリ然レトモ茲ニ謂フ市價ハ其意義之ヨリモ廣シ即チ他ノ財貨ノ貨幣ニ對スル價ヲ謂フモノニシテ價格ノ一種ナリ然レトモ貨幣カ他物ニ對シテ有スル價格ハ其市價ニ非スシテ價格ナリトス 此ノ如ク市價ナルモノハ種種ノ財貨ト特種ノ財貨タル貨幣トノ交換比例ナレバ此貨幣ノ他ノ財貨ニ對スル價格ニシテ騰貴スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ下落シ貨幣ノ價格ニシテ下落スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ騰貴スレキナリ故ニ價格ニハ決シテ全體同時ニ升降スルカ如キコトナキモ市價ニハ之アリトス所謂物價騰貴トハ即チ貨幣購買力ノ下落ニシテ物價下落トハ貨幣購買力ノ騰貴ニ外ナラサルナリ(六) 故ニ市價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリ然レトモ茲ニ注意スヘキハ物價ノ下落ハ貨幣ノ騰貴ナリ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリト曰フハ是レ唯一ノ事實ヲ言ヒ表ハシタルニ過キスシテ此事

實ヲ言ヒ表ハスニ過キサルコトト物價高低ノ原因ハ何ニ基カトノ問題ハ自ラ別種ノ事ナリトス再言スレハ物價ノ騰貴ハ即チ貨幣ノ下落ニ基クモノナリト概言スヘキモノニ非ス先ツ物價ノ騰貴カ貨幣ノ下落ト爲ル場合ヲ述フレハ例ヘハ銀貨本位ノ國ニ於テ銀ノ產出高増加シ其需要之ニ伴ハス却テ減少スルカ如キコトアラハ銀ノ價格下落スルヲ以テ物價ノ騰貴ヲ來スモノナリ然レトモ貨幣ノ價格下落セシテ物價ノ騰貴スルコトアリ例ヘハ農產物ノ一タル米カ因作ナルカ爲メ供給減少シ又ハ或事情ノ爲メ需要増加スルトキハ米價ヲシテ騰貴セシムルモ是レ固ヨリ貨幣ノ價格ノ下落ニ原因スルニ非ス又物價下落スルモ貨幣ノ價格騰貴セルニ基カサルコトアリ例ヘハ米穀豐穰ニシテ供給大ニ増加スルトキハ米價ハ下落スルモ是レ明カニ貨幣ノ價格騰貴シタルカ爲メニ非ス故ニ物價昇降ノ原因ハ貨幣價格ノ變動ニハ毫モ關係ナク貨物夫レ自身ノ變動ニ原因スルコトアルモノトス而シテ貨幣ノ下落ニ因ラスシテ貨幣以外ノ總テノ財貨力同時ニ騰貴スルコトハ甚タ稀ナルモ決シテ絶無ト謂フヘカラス即チ進步ノ速ナル國ニ在リテハ往往ニシテ

之アルモノトス例ヘハ明治二十七八年ニ於ケル日清戰爭以後ニ於テ諸物價ノ甚シク騰貴シタル原因ヲ考フルニ銀貨ノ下落モ亦之カ一原因ヲ爲シタルモノナランモ此間ニ於ケル物價ノ騰貴ハ決シテ銀貨ノ下落ノミニ基キタルモノニ非ス何トナレハ若シ銀貨ノ下落ニ基キテ物價カ騰貴シタルモノナリトセハ銀貨ノ最モ下落シタルトキ即チ戰爭前又ハ戰爭中ニ最モ甚シク物價騰貴ノ事實ヲ來ササルヘカラス且明治三十年銀貨本位制ヲ變シテ金貨本位制ト爲シ爾來金ノ價格カ騰貴シタルコトハアレトモ下落シタルコトハ全ク之ナキヲ以テ金貨本位制實施ト同時ニ若クハ少クトモ之ヨリ一二箇月ヲ經過スレハ一旦騰貴シタル物價モ下落セサルヘカラサルナリ然ルニ實際ニ於テハ之ニ反對ノ現象ヲ呈シ諸物價ノ騰貴ハ戰爭以後ニ始マリ三十年十月以來却テ益々騰貴シ明治三十一年夏期ノ頃ニハ殆ト其極點ニ達シ大ニ經濟社會一部ノ恐慌ヲ來セリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ物價騰貴ハ銀ノ下落ニ基クモノニ非サルコト推シテ知ルヘシ然ラハ物價ノ騰貴ヲ來セル重ナル原因如何ト云フニ我國ノ資金ノ所在カ異ナリタルコト其一ナリ詳言スレハ從前資金ノ

大部ハ資本家ノ手ニ在リテ此資本家ニ依リテ資金カ諸種ノ事業ニ給セラレタルヲ以テ銀行ニ在ルトカ其他一定ノ事業ニ投セラレタルモ戰爭後種種ノ事情ノ爲メ其資金ハ下等社會ノ者ニ落チタルコト妙カラス即チ軍夫ノ給料又ハ職工ノ賃銀ト爲リテ此等ノ者ニ歸シタリ特ニ戰爭後種種ノ企業起リタルカ爲メ之ニ要スル諸種ノ材料及ヒ人夫職工ノ需用増加シタルニ因リ隨テ原料ノ代價又ハ職工、人夫ノ賃銀ヲ騰貴セシメタリ加之職工、人夫等ノ如キ勞働者ハ勤儉貯蓄ノ思想ニ乏シキヲ以テ隨テ得タル賃銀ハ隨テ飲食等ニ使用シタル等ノ爲メ諸物價ヲ騰貴セシメタルモノナリ要スルニ銀ノ下落ハ物價騰貴ノ一原因タルニ過キスシテ其主タル原因ヲ爲スモノニ非ス故ニ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニノミ基クモノニ非サルナリ而シテ一旦狂騰シタル物價カ近時ニ至リ少シク下落ニ傾キタルハ米穀ノ豐作ナリシト一時勃興シタル民間ノ事業モ經濟社會ノ不振ニ鑑ミ幾何カ差控ヘラルルニ至リタルカ爲メナリ元來物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニ基クヤ否ヤニ付テハ歐洲ニ於テモ議論アル所ニシテ銀貨本位論者ハ歐洲ニ於ケル近時ノ物價下落ハ金貨ノ騰貴シ

タルカ爲メナリト説キ反對論者ハ生産法ノ改良交通機關ノ發達等ニ由リ廣義ノ生産費大ニ減少シタルニ因ルモノトセリ然レトモ何レモ極端ニ走リテ議論ニシテ二者共ニ物價下落ノ原因ヲ爲セルモノト謂ハサルヘカラス之ニ關スル詳細ノ事ハ此ニ説明スルノ暇ナキヲ以テ省略スルモ物價ノ高低ハ單ニ貨幣ノ高低ニ基クモノニ非サルコトヲ記憶セサルヘカラス

第四章 經濟

人類ハ其欲望ヲ満足セシメントスルニ當リ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ンコトヲ願フモノナリ是レ實ニ人類ノ天性ヨリ生スル經濟主義ト稱スヘキモノナリ此主義ニ據リ欲望ヲ満足セシメンカ爲メ經濟上ノ財貨殊ニ貨物ヲ絶ニ獲得シ使用スルヲ以テ目的トスル活動ヲ稱シテ之ヲ經濟又ハ經濟的活動ト謂フ此種ノ活動ノ總テニシテ一家ノ計畫ニ基キ全體ニ於テ規則正シキ順序ヲ法ニ據リ相合シテ自ラ一箇ノ系統ヲ爲シ又ハ一箇ノ系統ヲ爲セリト認メラルヘキモノヲ稱シテ之ヲ社會經濟又ハ國民經濟廣義ト謂フ故ニ社會經濟ハ一箇

新

報

ト同一ナリ

法省樓上二

第一問 臣民ニ納税ノ義務アル理由如何

第二回 立法ノ手續ヲ簡明ニ解説スヘシ

第一問 營業ノ自由ニ對スル警察權ノ範圍ヲ論スヘシ

第二問 行政官廳ト自治團體トノ異同ヲ論スヘシ

第一問 債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權讓渡トノ別如何

第二問 月主ハ法定ノ推定家督相續人ヲ離却スルコトヲ得ルヤ

民事訴訟法

第一問 人證ト鑑定トノ異同ヲ説明スヘシ

第二問 開庭判決ニハ如何ナル場合ニ於テ假執行ノ宣告ヲ爲スヘキカ

刑法

第一問 犯罪ノ主體タルコトヲ得ル者ト其客體タルコトヲ得ル者トノ異同如何

第二問 自己ノ所有物ニ關シテ行ヘレ得ル犯罪如何

刑事訴訟法

第一問 私訴ノ時效ハ何ノ言義ノ前後ニ依リテ規定ヲ異ニスル所アリヤ若シアリトモハ理由ヲ付シテ叙述スヘシ

第二問 刑事判決ニ對スル控訴ノ性質及控訴提起ノ效力如何

國際公法

第一問 甲國ノ一部分ヲ甲國ヨリ分離シテ乙國ヲ創立シタル場合ニ於テ第三國ハ其分離前ニ甲國ト締結シタル條約ヲ以テ乙

國ニ對抗スルコトヲ得ルヤ

第二問 犯罪人引渡條約ヲ締結シタル國ノ一方ハ他ノ一方ノ要求アレハ如何ナル犯罪人ヲモ引渡スノ義務アリヤ

國際私法

第一問 簡化ノ要件ヲ説明ス可シ

第二問 離婚禁止主義ノ國ニ屬スル夫婦カ日本ニ在留中裁判上ノ離婚ヲ請求セリ其請求ハ適當ナルヤ

商法

第一問 生命保険ト損害保険トノ同性質上如何ナル差異アリヤ

第二問 株主ハ會社ニ對シテ如何ナル權利義務ヲ有スルヤ

○第二年級編入試験 本校第二年級編入試験ハ去ル九月二十三日ヨリ二十

九日マテ施行セリ其問題左ノ如シ

法學通論

(中村博士)

一 法律解釋ノ原則ヲ記載スヘシ

二 法律ハ如何ニシテ發生セラルモノナリヤ

國際公法(時)

(中村博士)

一 治外法權ノ性質ヲ述ヘシ

二 最近國際條約ハ何ソヤ

民法總則(第一章)

(鈴木學士)

一 法人ノ觀念ヲ説明スヘシ

二 未成年者ト禁治產者トノ能力ノ差異如何

經濟學

(山崎學士)

一 報酬率減ノ法則トハ何ソヤ

二 貨幣ノ三大職務ヲ述ヘシ



- 三 地代ノ成立スル所以ヲ説明セシ
三層ノ内ニ題ヲ選ミテ答フヘシ
- 二 刑法總論 (谷野學士)
犯罪ノ成立スル場所如何
法人ニ對シ刑ヲ科スルコトヲ得ルヤ
- 一 憲法 (竹井學士)
憲法ノ國法上ノ性質ヲ説明スヘシ
天皇ノ憲法上ノ大權トハ如何ナル意義ヲ有スルカ
民法總則 (自第四章 塚田學士)
法律行為ノ成立要件ヲ略説スヘシ
代理人ハ能力者タルコトヲ要セストノ意義及其理由ヲ説明スヘシ
國際公法 (時) (秋山學士)
戰間員及非戰間員ノ區別ヲ説明スヘシ
中立國領海内ニ於テ交戰國軍艦力敵國船舶ヲ拿捕シタルトキハ如何ナル權利義務ヲ關係國相互間ニ生スルヤ
民法物權 (自第一章 中山學士)
占有權ノ效力ヲ説明セヨ
地上權ト永小作權ノ差異ヲ舉ゲヨ

法學士 志田鈞太郎先生著述

志田氏 商法要義

第一卷 (總) 既刊
定價金五十錢 郵稅六錢
特價金四十錢
第二卷 (會社) 篇上
定價金七十五錢 郵稅八錢
特價金六十錢

本書ハ逐條解釋體ニシテ先ツ法條ノ立法趣旨及ヒ法理ヲ言明シ且ツ萬國商
法典ノ法條法理ヲ參酌シ次ニ法條ノ字句ヲモ丁寧ニ解釋シタルモノナリ先
生我カ商法典ノ編纂ニ參與シ尋テ獨佛ニ留學ヲ命セラレ本書モ亦之カ爲メ
一時出版ヲ中絶セリ先生歸朝ノ後頻ニ續稿ノ起稿ニ從事セラレ茲ニ第二卷
ヲ發刊スルニ至レリ但全部ノ定價ハ未定トス

發行所 東京麴町區富司法省指定私立和佛法律學校
士見町六丁目文部省認定
發賣所 東京神田裏神保町書肆明法堂

法學志林

每月一回十五日發行
一冊特價郵稅共金九錢
十冊前金郵稅共八十錢

第三十五號

九月二十日發行

志林

○電報ノ偽造ヲ論ス
○最近判例批評
○商號ニ就テ

法學士 梅島直通
法學士 富谷銈太郎
法學士 富谷銈太郎

纂論

○取引所

海山獵夫

解疑

○留置權ノ發生ト占有トノ關係、法學博士富井政章○罪名ヲ異ニセル附帶控訴、法學士鶴見守義○條約成立ノ時期、法學士秋山雅之介○竹中本ノ生存期間ヲ限トシタル地上權ノ效力、法學士中山成太郎○公用ノ兵器使用ノ性質、法學士岡實ノ拔劍及ヒ速兵ノ兵器使用ノ性質、法學士岡實其他判例、雜報、記事數十件

發行所 和佛法律學校

明治三十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可

明治三十五年十月四日印刷

明治三十五年十月五日發行

(定價金貳拾錢)

東京市芝區南船場町二十七番地

編輯兼發行

松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者

小宮山信好

東京市芝區西ノ久保町第十一番地

印刷所

金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)